

いぐさ



下

赤とんぼ

光村図書





この本でがくしゅうする みなさんへ
この本では、つぎのしるしが つかわれています。



話したり聞いたりしましょう。



書きましょう。



読みましょう。



ことばのがくしゅうをしましょう。



大切なことです。おぼえたり、たしかめたりしましょう。



国語のがくしゅうで よくつかわれることばです。



がくしゅうをするときに 気をつけることなどを 書いています。



聞いて、がくしゅうするところです。



がくしゅうをするときに 見るとよいページを 書いています。

文字やことばのしるし

○ ^{あた}新しくがくしゅうする

かん字。

● 読み方が新しいかん字。

▲ 新しくがくしゅうする
かたかな。



このしるしが あるところには、
がくしゅうのたすけとなる し
りようがあります。読みとると
きには、かならず、先生やお
うちの方といっしょに ^{おこな}行いま
しょう。



つくつくほうしが

なくころになると、

あの ゆうびんのマークが、

きっと 知らせにきます。

金色の空から

もう あきですよ……って。

二年生の国語のまなびを見わたそう 4
つづけてみよう 10



① そうぞうしたことを、音読げきであらわそう **読む**
お手紙 アーノルドローベルさく みきたくやく 11

ことば 主語と述語に 気をつけよう 27
ことば かん字の読み方 29



そうだんにのつてください **話す・聞く** 34

② せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう **読む 書く**
馬のおもちやの作り方 みやもと えつよし 39



おもちやの作り方をせつめいしよう 46

ことば かたかなで書くことば 50

③ **せかい一の話** きたしやうすけ 52



③ 自分とくらべて、かんそうを書こう **読む**
わたしはおねえさん いいいむつみ 55



お話のさくしやになろう **書く** 71





詩の楽しみ方を見つけよう **読む**
 ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば……………78

ことば にたいみのことば、はんたいのいみのことば…80



④ だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう **読む**
おにごっこ ……もりしたはるみ……………83

読じょうほう 本でのしらべ方……………93

ようすをあらわすことば……………94



見たこと、かんじたこと **書く**……………98



楽しかったよ、二年生 **話す・聞く**……………100

カンジーはかせの大はつめい……………104

ことば ことばを楽しもう……………106



⑤ 読んで、かんじたことをつたえ合おう **読む**
スーホの白い馬 ……おおつかゆうぞう……………107



すてきなところをつたえよう **書く**……………127

きせつのことば 秋 32 冬 76 かん字の広場 ④ 54 ⑤ 82

ひろく がくしゅうを広げよう

「たいせつ」のまとめ……………134

げんこう用紙のつかい方……………138

本のせかいを広げよう……………140

せかい一の話……………142

ジオジオのかんむり……………148

これまでに ならったかん字……………156

この本で ならうかん字……………159

ことばのたからばこ……………161



国語のまなびを 見わたそう

がくしゅうのすすめ方

がくしゅうのすすめ方と、これからどんな
がくしゅうをするかをたしかめましょう。

はじめに

「やってみよう。」
「どうしたらいいかな。」
「どうしてかな。」



読む

書く

話す・聞く



ふりかえる

「分かった。」「できた。」
「まだよく分からない。」
「——ということばを
はじめて知った。」



がくしゅうやせいかつにいかす

「こういうときにも
つかえそう。」
「このことばを
つかってみたい。」



二年生でかくしゆうするじょう

これからまなぶことを たしかめたり、かくしゆうしたことを ふりかえったりするときにつかきましょう。

話す・聞く



上

そうだんにのつてくたさい 34

考えを出し合い、話し合う

わだい

楽しかったよ、二年生 100

つたえたいことをきめて、はっぴようする

じゅんばんに ならぼう

ともだちを さがそう

だいじな ことを おとさずに、

話したり 聞いたり する

メモ

あったらいいな、こんなもの

しつもんをして、あいての考えを

ひき出す

しつもん

ことばでみちあんない

書く



上

おもちゃの作り方をせつめいしよう 46

じゅんじよが分かるように書く

お話のさくしやになろう 71

お話を書くとき

できごと

見たこと、かんじたこと 98

詩に書くことを見つける

すてきなところをつたえよう 127

読む人に分かりやすい文しようを書く

きょうの できごと

日記に 書く こと

かんさつ名人に なるう

かんさつした ことを 書く

こんな もの、見つけたよ

組み立てを 考えて 書く

組み立て

二年上までのまなびをたしかめよう

- じゅんじよに気をつけて 話す。
- だいじなことはなにかを 考えて、話したり聞いたりする。
- 聞くときは、だいじなことをおとさないように、メモをとる。
- 話す人の考えを くわしく聞くために、だいじなことは なにかを考えて、しつもんする。

二年上までのまなびをたしかめよう

- 字を、正しく書く。
- 丸(○)、点(・)、かぎ(「」)を、正しくつかう。
- 「は」「を」「へ」を、正しくつかう。
- 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを 考えて書く。
- 読む人につたわるように、したこと、見たこと、言ったこと、聞いたこと、思ったことなどを、くわしく書く。
- 文しようを書いたら、まちがいがなしかたしかめる。
- 友だちの文しようを読んで、思ったことや 分かったことをつたえる。



せつめいする文しよう

馬のおもちやの作り方

📖 せつめいのしかたに 気をつけて読む

おにごっこ

📖 だいじなことばや文を見つける

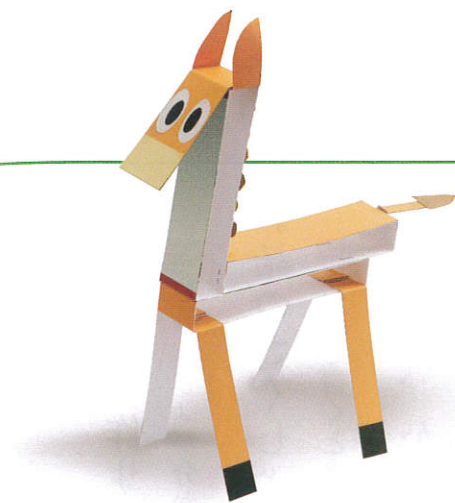
たんぼほのちえ

📖 せつめいする 文しようを 読む

どうぶつ園のじゅうい

📖 読んで、考えをもつ

ひっしや



お話・詩

お手紙

📖 じんぶつがしたことや ようすを思いうかべる

わたしはおねえさん

📖 じんぶつと自分を くらべて読む

ねこのこ／おとのはなびら／
はんたいことば

スーホの白い馬

📖 読んで、かんじたことをつたえ合う



上

ふきのとう

📖 おはなしを たしかめる

スイミー

📖 あらすじを まとめる

雨のうた

どうじょうじんぎつ

あらすじ

二年上までのまなびをたしかめよう

● せつめいする文しようを 読むときは、つぎのことに 気をつける。

● じゅんじよ

● わけ

● じかんをあらわすことばを 見つけて、いつのできごとかをたしかめる。

● だれがなにをしたかや、なにがあつたかを くわしく読む。

● くらべて読むと、なにがちがうかがよく分かる。



二年上までのまなびをたしかめよう

● お話には、いくつかのまとまりがある。

● どうじょうじんぶつをたしかめる。

● どうじょうじんぶつがしたことや、言ったことが分かる ことばを見つめる。

● 絵にかかっている ことを 手がかりにして、お話を思いうかべる。

● じんぶつがしたことや できごとを、みじかいことばで つなげて書くと あらすじになる。

● かんじたことを 友だちとはなすと、お話をもっと楽しめる。





ことばのつかい方

主語と述語に気をつけよう……………	27
かん字の読み方……………	29
かたかなで書くことば……………	50
にたいみのことば、 はんたいのいみのことば……………	80
ようすをあらわすことば……………	94
カンジーはかせの大はつめい……………	104
かん字の広場④……………	54
⑤……………	82

上

同じぶぶんをもつ かん字 うれしい ことば	
丸、点、かぎ	
なかまのことばとかん字	
かん字の ひろば ①②③	
かたかなの ひろば	

じょうほう

上

本でのしらべ方……………	93
じゅんじょ	
メモをとる とき	

うけつがれることば

聞いて楽しもう

——せかい一の話……………	52
ことばを楽しもう……………	106
きせつのことば 秋……………	32
冬……………	76

上

聞いて たのしもう	
——いなばの 白うさぎ	
ことばあそびをしよう	
きせつの ことば 春・夏	

読書

上

図書館たんけん
お気に入りの本を
しようかいしよう
ミリーのすてきなぼうし



つづけてみよう

きょうのひとことを 書いていますか。できごとや 見つけたもののほかに、こんなことも書いてみましょう。

- はじめて知ったこと
- 本で見つけたことば
- 人に言われたことば

今月の一ばんを、グループでつたえあっても楽しいです。ね。

10

5

ぼくの今月の一ばんは、九九をぜんぶ言えるようになったことです。おふろでもれんしゅうして、がんばりました。





読む

そうぞうしたことを、
音読げきであらわそう



お手紙

1

なかよしの友だちの「がまくん」と「かえるくん」の間に、どんなことがおこるのでしょうか。



これまでのかくしゅう

-  おはなしを たしかめる（ふきのとう）：上 26 ページ
-  あらすじを まとめる（スイミー）……… 上 76 ページ

お手紙

アーノルド・ローベル さく・絵
みき たくやく

がまくんは、げんかんの前に すわっていました。

かえるくんがやって来て、言いました。

「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそ

うだね。」

「うん、そうなんだ。」

がまくんが言いました。

5

音読げき

声と かんたんな
体のうごきで、お
話をあらわすもの。

お手紙^{がみ}

やって来る

(来て)

「今、一日のうちの かなしい時なんだ。つまり、
お手紙をまつ時間なんだ。そうになると、いつもぼく、
とても ふしあわせな気持ちに なるんだよ。」

「そりゃ、どういいうわけ。」

かえるくんがたずねました。

「だって、ぼく、お手紙 もらったこと

ないんだもの。」

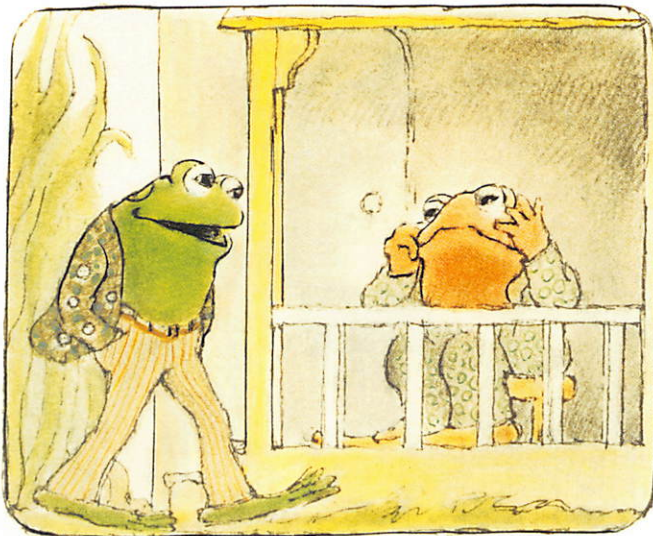
がまくんが言いました。

「いちどもかい。」

かえるくんがたずねました。

10

5



●時^じ間^{かん}

○時^{とき}

「ああ。いちども。」

がまくんが言いました。

「だれも、ぼくに お手紙なんか くれた
ことがないんだ。毎日、ぼくのゆうびん
うけは、空っぽさ。お手紙を まって
いるときが かなしいのは、そのため
なのさ。」

ふたりとも、かなしい気分で、げんかん
の前に こしを下ろしていました。
すると、かえるくんが言いました。





「ぼく、もう 家へ帰らなくっちゃ、がま
くん。しなくちやいけなことが、ある
んだ。」

かえるくんは、大いそぎで
家へ帰りました。えんぴつと紙
を見つけてました。紙に何か書き
ました。紙をふうとうに入れま
した。ふうとうに こう書きま
した。
「がまがえるくんへ」

10

5

○何^{なに}

○帰^{かえ}る





かえるくんは、家からとび出しました。

知りあいのかたつむりくんに会いました。

「かたつむりくん。」

かえるくんが言いました。

「おねがいでけど、このお手紙を がまくん
の家へ もって行って、ゆうびんうけに
入れてきてくれないかい。」

「まかせてくれよ。」

かたつむりくんが言いました。

「すぐやるぜ。」

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりま
した。

がまくんは、ベッドで お昼ねをしていました。

「がまくん。」

かえるくんが言いました。

「きみ、おきてさ、お手紙が来るのを、もう

ちよつと まって見たらいいと 思うな。」

「いやだよ。」

がまくんが言いました。

「ぼく、もう まっているの、あきあきしたよ。」

10

5



かえるくんは、まどからゆうびんうけを見ました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「がまくん。」

かえるくんが言いました。

「ひよっとして、だれかが、きみに お手紙

をくれるかもしれないだろう。」

「そんなこと、あるものかい。」

がまくんが言いました。

「ぼくに お手紙をくれる人なんて、

いるとは思えないよ。」

10



5

かえるくんは、まどからのぞきました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「でもね、がまくん。」

かえるくんが言いました。

「きょうは、だれかが、きみに お手紙 くれるかも

しれないよ。」

「ばからしいこと、言うなよ。」

がまくんが言いました。

「今まで、だれも、お手紙 くれなかつたんだぜ。

きょうだって同じだろうよ。」

かえるくんは、まどからのぞきました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を

見ているの。」

がまくんがたずねました。

「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」

かえるくんが言いました。

「でも、来^きやしないよ。」

がまくんが言いました。

「きつと来るよ。」

かえるくんが言いました。

「だって、ぼくが、きみに お手紙出したんだもの。」

「きみが。」

がまくんが言いました。

「お手紙に、なんて書いたの。」

かえるくんが言いました。

「ぼくは、こう書いたんだ。」

『親愛^{あい}なる がまがえるくん。ぼく

は、きみが ぼくの親友である

ことを、うれしく思っています。

10

5



親友^{ゆう} • 親愛^{しんあい}



きみの親友、かえる。』』

「ああ。」

がまくんが言いました。

「とても いいお手紙だ。」

それから、ふたりは、げん

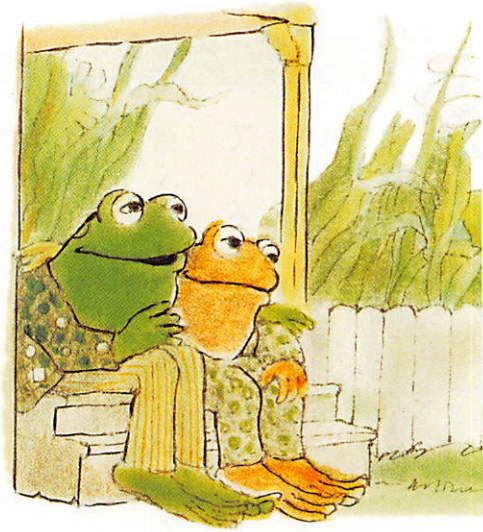
かんに出て、お手紙の来るの

を まっています。

ふたりとも、とても しあ

わせな気もちで、そこにす

わっていました。



長いこと まっていました。
 四日たって、かたつむりく
 んが、がまくんの家につきま
 した。

そして、かえるくんからの
 お手紙を、がまくんに
 わたしました。

お手紙をもらって、
 がまくんは、とても
 よろこびました。

10



5

アーノルド
 ローベルさんは、
 「ぶくろうくん」
 「どろんこ こぶ
 た」なども書いて
 います。



見通しをもとう

そつぞつしたことを、音読げきであらわそう

- 音読のしかたを考えましょう。
- じんぶつがしたことや ようすを思いうかべながら読みましょう。

とらえよう

●「お手紙」に書いてあることを、たしかめましょう。

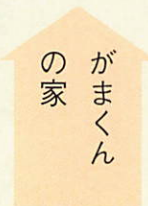
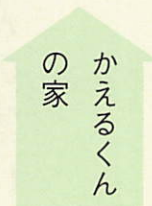
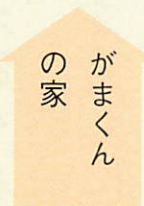
ふかめよう

● 14・15ページと22・23ページに、「がまくん」と「かえるくん」が、ならんですわっている絵があります。ふたりの話し方やようすを 思いうかべましょう。

● ふたりは、書いてあることが 分かっている手紙を、どうして、長い間まっていたか 思いますか。



たしかめること

 <p>がまくん の家</p>	 <p>かえるくん の家</p>	 <p>がまくん の家</p>
<ul style="list-style-type: none"> • ふたりは、何を、どのように話しましたか。 • ふたりは、何をしましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「かえるくん」は、だれに、何をたのみましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「がまくん」は、「かえるくん」に何を言いましたか。 • ふたりは、何をしましたか。 • 「かえるくん」は、家へ帰って、何をしましたか。



ふりかえろう

- 知る 声の出し方やうごきで くふうしたのは、どんなことですか。
- 読む どのことばや絵から じんぶつのようにすを思いうかべましたか。
- つなぐ 友だちの音読げきを見て、どんないいところを見つけましたか。

ひろげよう

● ノートを見ながら、音読げきをしましょう。

まとめよう

- 音読げきで読みたいところを、ノートに書きうつしましょう。つぎのことも考えて、書き入れましょう。
- だれがしたこと（言ったこと）か。
- どのように読むとよいか。
- どんなうごきをするか よいか。

ノートのれい

だれが言ったか。 どのように読むか。
 どんなうごきをするか。

かえるくん

ふしぎそうに。がまくんの顔を見ながら。

「そりや、どういうわけ。」

かえるくんがたずねました。

ふしぎそうに聞こ

えるには、どう読め

ばいいかな。





じんぶつがしたことや
ようすを思いうかべる

● お話にあることばや 絵から、
じんぶつがしたことやようすを
考える。

● じんぶつが、そのことを した
り言ったりしたのは どうして
なのかを考える。

5

時

時時時時時時時時

時とき

来 紙

紙紙紙紙紙紙紙紙
来来来来来来
お手紙がみ (紙かみ)
やって来る

(来こない
来きます)

帰

帰帰帰帰帰帰帰帰
帰かえる

何

何何何何何何何何

何なに

この本、読もう

「がまくん」と「かえるくん」が
出てくるお話です。どの本を読んで
みたいですか。



ふたりは いつも



ふたりは ともだち



ふたりは きょうも



ふたりは いっしょ

ふるく
「ジオジオのかん
むり」

148 ページ

ことば

主語と述語に

気をつけよう

だれが

かえるくんが 言う。

何が

お手紙が 来る。

だれは

がまくんは かなしそうだ。

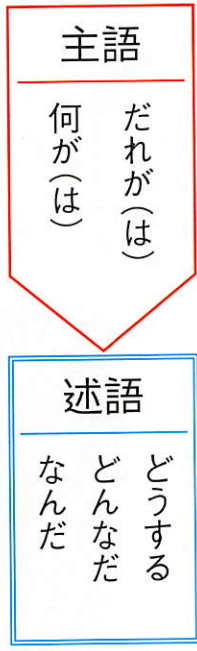
何は

これは お手紙だ。

文の中で、「だれが(は)」「何が(は)」に当たることばを **主語**、

「どうする」「どんなだ」「なんだ」

に当たることばを **述語**といいます。



▼ つぎの文の中から、主語と述語を見つけてみましょう。

- 兄が 里いもを 食べる。
- 空が とても 明るい。
- くじらは 海の 生きものだ。
- 小さな 子どもが 風車をもつ。
- 学校の 池は きれいだ。
- たなかさんは 今週の 当番だ。

- 当番
- 今週
- 池
- 風車
- 明るい
- 食べる
- 里いも

主語は、いつも 文のはじめにあるとは かぎりません。

• お手紙をもらって、がまくんは、
とても よろこびました。

文を読むときには、主語と述語に

気をつけると、じんぶつがしたこと
や ようすが、よく分かります。

話すときや 文を書くときには、

主語と述語が、あいてにきちん
つたわるようにしましょう。

里 里里里里里里 里さとも
食 食食食食食食食 食たべる

明 明明明明明明 明あかるい
池 池池池池池池 池いけ

週 週週週週週週 今週しゅう
番 番番番番番番 当番ばん

10

5



▼「ぼうしが。」と言っただけでは、「ど
うした」のかが分かりません。どの
ように言えばよいでしょうか。

ことば

かん字の読み方

つぎの文を、声に出して 読んで
みましょう。

わたしのおにいさんは、九月
九日の日曜日に、九さいになり
ました。



5

文の中には、「九」と「日」が
三回ずつ出てきました。それぞれ、
どんな読み方をしましたか。

九 | 九月 | 九日 | 九さい |
日 | 九日 | 日曜日 | 日曜日 |

一つのかん字でも、読み方は一つ
とはかぎりません。ことばによって、
ちがう読み方を することがあり
ます。

5

▼ たくさんさんの読み方がある。かん字です。読んでみましょう。

上

じょう
うえ
うわ
かみ
あがる・あがる
のぼる

- 屋上おくから、東京えきが見える。
- たなの上じょうに、金魚ばちをおく。
- 上うへばきをぬぐ。
- 川上かわのうへで、つりをする。
- 古い本をつみ上あげる。
- お寺てらのかいだんを上あげる。

5

下

か
げ
した
しも
さげる・さがる
くだる・くだす・くださる
おろす・おりる

- ろう下ろうかに西日にしがさす。
- 夜よが明あけてから、下山げざんする。
- 木きの下したで、車くるまが止とまる。
- 川下かわのしたは、ながれがおそい。
- 頭かぶを下くだげる。
- さか道さかみちを下くだると、広場ひろばがある。
- ふみ台ふみだいから下くだりる。

5

東京とうきょう 金魚ぎんぎょ 古ふるい 寺てら 西日にし 夜よ 明あける 下山げざん 止とまる さか道さかみち 広場ひろば ふみ台ふみだい

「上げる 上る」「下げる 下る
 下ろす」の 線のような、かん字
 の下に つづけて書くかなを、おく
 りがなといいます。おくりがなは、
 かん字の読み方を はつきりさせる
 はたらきがあります。かん字を正し
 く読むためには、おくりがなに気を
 つけることが 大切です。

5

1

線のことばを、おくりがな
 に気をつけて 読みましよう。

- 草が生える。
- 弟が生まれる。
- 手紙を出す。
- 家の外に出る。
- 新しい船が、みなに入る。
- お米をふくろに入れる。

5

○新あたらしい
 ○船ふね
 ○お米こめ

東 東 東 東 東 東 東 東 東 東
 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京
 古 古 古 古 古 古 古 古 古 古
 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

西 西 西 西 西 西 西 西 西 西
 止 止 止 止 止 止 止 止 止 止
 道 道 道 道 道 道 道 道 道 道
 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場

西 西 西 西 西 西 西 西 西 西
 止 止 止 止 止 止 止 止 止 止
 道 道 道 道 道 道 道 道 道 道
 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場

台 台 台 台 台 台 台 台 台 台
 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新
 船 船 船 船 船 船 船 船 船 船
 米 米 米 米 米 米 米 米 米 米

西 日
 止 まる
 さか 道
 広 場

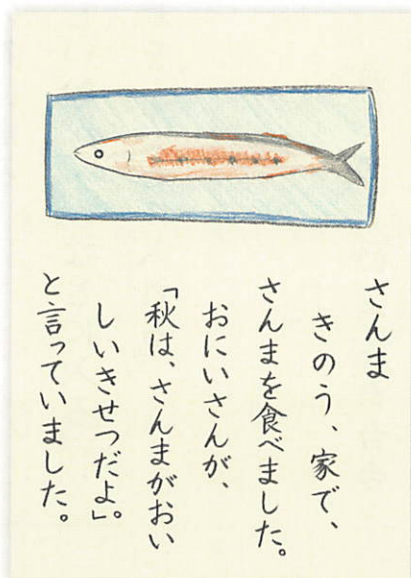
ふ み 台
 新 しい
 船
 お 米

きせつのことば 3

秋がいつぱい



どんなものを 見たときに、秋だなあとかん
じますか。秋をかんじるものを、カードに書き
ましょう。



10

5

秋 あき



15



ひよどり



すすき



こおろぎ



すす虫



いちよう



もみじ



ねこじやし



やま

かんざわとしこ

ゆうべの あめが

すつきり はれて

やまは ごきげん

あかい きいろい

もみじきて

くもを だっこして

すわってる

秋

秋秋秋秋秋秋秋秋秋
秋^{あき}

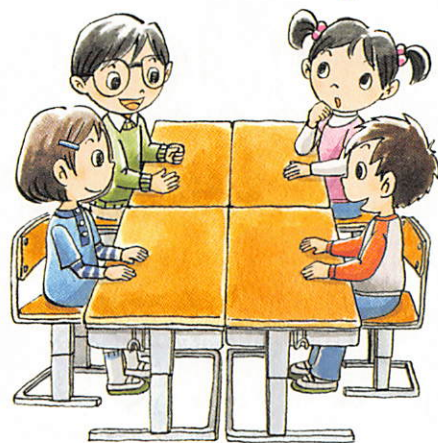


話す・聞く

みんなで話をつなげよう

そうだんにのってください

やすださんのグループでは、友だちのそうだんごとを聞いて考えを出し合う会をすることになりました。おたがいの考えのよいところを見つけながら、話し合います。みなさんも、わだいをきめて、話し合ってみましょう。



たしかめよう

「二年上までのまなびをたしかめよう」

5ページ

がくしゅうのすすめ方

1 わだいをきめる。

2 話し合いのしかたをたしかめる。

3 グループで話し合う。

4 話し合ってよかったことをつたえ合う。

ふりかえろう

1 わだいをきめよう。

学校や、ふだんの生活でのことから、友だちに そうだん
してみたいことを 考えましょう。

これからすること

弟のたんじょう日に、
どんなおいおいを して
あげたら よろこぶかな。



なやんでいること

読書の時間に 読む本が、
なかなかきめられない。ほか
の人は どうしているのか、
きいてみたい。



がくしゅうのこと

町たんけん、パンや
さんに行くことになった。
パンやさんに 何をきい
たらいいかな。

2 話し合いのしかたをたしかめよう。

そうだんする人が、話し合いをすすめますよう。

きょうは、わたしの
そうだんにのつてください。



わだいを
たしかめる。

ひとりずつじゅん
に考えを出し合う。

いいなと思った
考えをつたえる。

🌱 わだい

話すときなどに中
心となることから。

📖 164 ページ

出し合う

生活



3 グループで話し合おう。



じゅんばんに そうだんする人になって、話し合います。
話し合うときに、どんなことに 気をつければいいのかを
たしかめましょう。

● はじめに

- わだいをたしかめる。

5

わたしは、パンのしゅるいのことを
きこうと思っています。ほかに、ど
んなことをきいたら、パンやさんのこと
がくわしく分かるでしょうか。

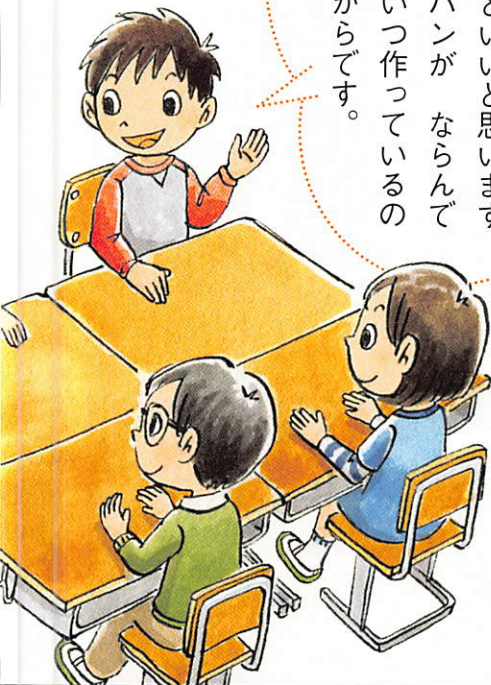


● 考えを言うとき、考えを聞くとき

- 考えたことを すずんで話す。
- 考えと、その理由ゆうを言う。
- 話している人を見て、うなずきながら
聞く。
- 人の話を さいごまで聞いてから話す。

10

ぼくは、何時からはたらい
ているかを きくといいと思います。
朝、できたてのパンが ならんで
いたのを見て、いつ作っているの
かなと 思ったからです。



○作つくる ●何なん時 ○理り由

● 友だちと 考えを出し合うとき

- 友だちが言ったことを くりかえしてたしかめる。
- 友だちの話を聞いて、じぶんの考えと同じだと思ったり、いい考えだなと 思ったりしたら、そのことを みんなにつたえる。
- くわしく知りたいことを しつもんする。

● さいごに

- 話し合いのまとめとして、そうだんした人は、どうすることに したかを言う。

わたしは、パンやさんがはたらいている時間や、パンやさんになろうと 思ったわけを ききたいです。 どうしてかというと、――。



5

わたしも、はたらいている時間が 知りたいです。でも、はたらきはじめる時間だけではなくて――。



八時ぐらいです。いつも、ぼくが 学校に行くときには あいています。



何時からはたらいているかを きくのですね。パンやさんのしごとのことが分かるので、いいと思います。なかはらは、朝、何時ごろに見たのですか。



4 話し合ってよかったことを つたえ合おう。

そうだんしてよかったと思ったのは、どんなことですか。友だちの話し方で、いいなと思ったところも

つたえましょう。



ふりかえろう

- 知る 友だちの考えの中で、だれと、どんなところが同じでしたか。
- 話す・聞く 友だちの話し方や聞き方で、どんなところを まねしてみたいですか。
- つなぐ 話し合ってみて、いちばんよかったのは どんなことですか。



考えを出し合い、話し合う

つぎのことに 気をつけて話し合いましょう。

- 話し合いたいこと（わだい）は何か。
- 友だちの考えの よいところや、じぶんの考えと 同じところとちがうところはどこか。

合 合 合 合 合 合 合 合

出し合う

生活

理 理 理 理 理 理 理 理

理由

作 作 作 作 作 作 作 作

作る

2



書く 読む

せつめいのしかたに 気をつけて
読み、それをいかして書く

馬のおもちやの作り方

おもちやの作り方を

せつめいしよう

馬のおもちやは、どのように作るの
でしょうか。分かりやすいせつめいの
しかたを 見つけましょう。そして、
おもちやの作り方を書きましょう。

これまでのがくしゅう

📖 せつめいする 文しよを 読む

(たんぼの ちえ) ……

上 50 ページ

📖 読んで、考えをもつ

(どうぶつ園のじゅうい) ……

上 126 ページ



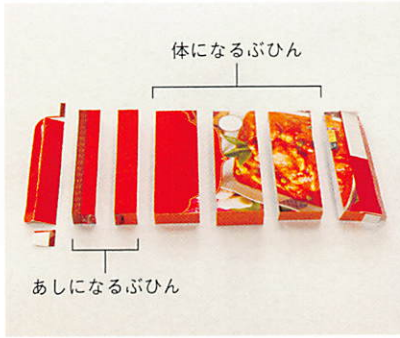
馬のおもちやの作り方

みやもと えつよし 文

みの回りにある、食べものやおかしの
空きばこをつかうと、いろいろな
おもちゃを作ることができます。

ここでは、すこしのしかけで、楽しい
うごきをする、馬のおもちやの作り方を
せつめいします。





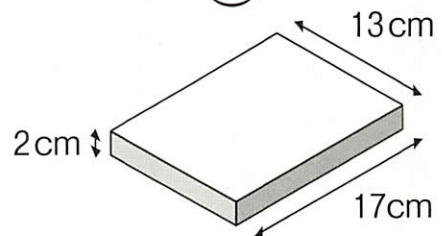
〈ざいりょうとどうぐ〉

• 空きばこ 一つ

(下の図ぐらいの 大きさのもの)

• 色画用紙 • ものさし

• はさみ • ホチキス • のり



〈作り方〉

まず、馬の体や あしになるぶひんを 作ります。

空きばこを 四センチメートルぐらいの太さで

四つに切りましょう。そのうちの三つが、馬の体

になります。のこった一つは、半分に切り分けま

しょう。これは、馬のあしになります。

10

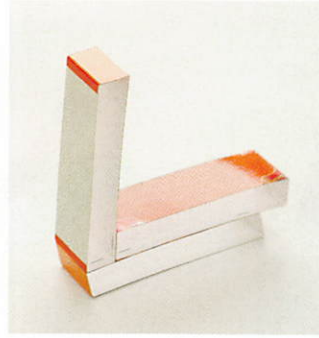
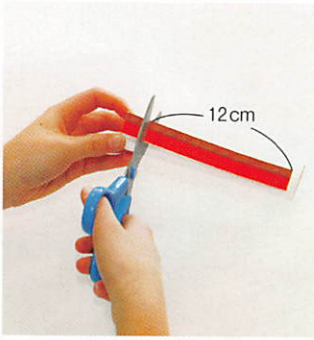
5

○馬^{うま}

• 空きばこ

• 図^ず

○画^が
○用^{よう}
• 紙^し



つぎに、馬の体を作ります。体のぶひんのうちの一つをよこむきにおきます。これが、馬のおなかなります。もう一つをたてにして、はしを合わせておなかの上におきます。これが、馬の首になります。おなかと首がかさなったところを、ホチキスでとめます。のこったもう一つは、よこにしておなかの上におきます。これが、馬のせなかになります。せなかは、おなかと首に、ホチキスでとめます。これで、馬の体ができました。

それから、馬のあしを作ります。あしのぶひんから、十二センチメートルの細長い四角形をそれぞれ二つずつ切ります。四つできたら、かた

10

5

○細長い
●四角形

○首



ほうのはしを 二センチメートルおりまげます。その後、しゃしんのように、おりまげたところを おなかにとめます。

さいごに、顔を作ります。色画用紙を、たて九センチメートル、よこ四センチメートルの 形に切ります。目やはなをつけたら、首の上にはり、耳をつけます。

これで、馬のおもちやのできあがりです。たてがみやしっぽをつけたり、好きな色の画用紙を はったりしてもいいですね。

〈楽しみ方〉

おなかをもち、せなかを おしたりひいたりすると、首が大きくうごきます。このうごき方をいかして、ほかのどうぶつを作ってみてもいいですね。



見通しをもとう

せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう

- ・「馬のおもちゃの作り方」から、せつめいのくふうを見つけましょう。
- ・見つけたくふうをつかって、おもちゃの作り方のせつめい書を 書きましょう。

とらえよう

- 文しょうを読んで馬のおもちゃを作り、つぎのことを 友だちと話しましょう。
- ・読むときに 気をつけたこと
- ・なんども読みかえたところ
- 文しょうが、どんなまとまりに 分かれているかを たしかめましょう。

5

ふかめよう

- 分かりやすくせつめいするため、どんなくふうを していますか。見つけたことを、ノートに書きましょう。

せつめいのくふうを見つける

- つぎのように思ったところに 気をつける
と、くふうが見つかります。
- ・こんなじゅんじよで 書いてあったから、分かりやすかった。
 - ・こんなことが 書いてあったから、分かりやすかった。
 - ・こんなことばやしやしが つかってあったから、分かりやすかった。

5

まとめよう

●「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(46ページ)では、おもちゃの作り方を せつめいする文しよを書きます。「馬のおもちゃの作り方」を読んで 見つけたくふうの中から、じぶんが見つかったみたいものは どれか、考えましょう。

5


ひろげよう

●つかってみたくふうを、友だちとつたえ合いましょう。友だちが見つけたくふうで、「いいな。」と 思ったものがあれば、書いておきましょう。

10

「まず」「つぎに」ということばが つかってあったから、作り方のじゅんじょが よく分かりました。




たいせつ
せつめいのしかたに
気をつけて読む

- 文しよのまとまりに 気をつける。
- 「まず」「つぎに」などのことばを見つけて、じゅんじよをとらえる。
- 絵やしやしんが、文しよのどこをせつめいしているかをたしかめる。

5

おもちゃの作り方をせつめいしよう

あなたは、これまでに、どんなおもちゃを

作ったことがありますか。「馬のおもちゃの作り

方」で学んだせつめいのくふうをつかって、

おもちゃの作り方を書きましよう。

1 せつめいするおもちゃをきめよう。

これまでに作ったおもちゃの中から、作り方をせつめいするものをきめましよう。

図画工作や生活科の
時間に作ったおも
ちゃの中からえらぼう。



かくしゅうのすすめ方

1 せつめいするおもちゃをきめる。

2 分かりやすいせつめいのしかたを
考える。

3 せつめいする文しように書く。

4 友だちと読み合う。

- 友だちに、どのおもちゃの作り方を 教えてあげたいですか。
- そのおもちゃを作るのに、どんなざいりょうやどうぐをつかいますか。

2 分かりやすいせつめいのしかたを 考えよう。

「馬のおもちゃの作り方」で学んだ せつめいのしかたをつかって、書きましよう。

- 文しよの組み立ては、どのようになりますか。
- 「作り方」を、どんなじゆんじよでせつめいしますか。
- どんな絵や しゃしんを入れると、分かりやすいですか。

3 せつめいする文しよを書こう。

作り方のじゆんじよが分かるように、くふうして文しよを書きましよう。

10

5



「馬のおもちゃの作り方」では、どんなことばをつかって、じゆんじよをせつめいしていたかな。

• 学^{まな}ぶ

• 図^こ画^{さく}工^く作^く

• 生^か活^く科^か

けん玉の作り方

ささき まな

まつぼっくりをつかった、けん玉の作り方をせつめいします。

〈ざいりょうとどうぐ〉

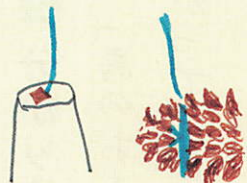
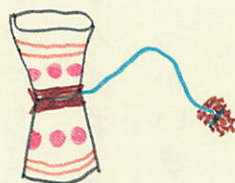
- まつぼっくり 一つ
- 毛糸（つくえのよこの長さ）
- 紙コップ ニつ
- ガムテープ
- カラーペン

〈作り方〉

まず、毛糸のはしを、まつぼっくりにまきつけます。そして、とれないように、きつくむすびます。

つぎに、毛糸のはんたいがわのはしを、紙コップのそこにつけます。ガムテープで、毛糸をとめます。

それから、その毛糸をはさむようにして、もう一つの紙コップをのせます。コップのそこそこそこをぴったり合わせて、ガムテープでしっかりとめます。紙コップに、カラーペンできれいなもようをつけて、できあがりです。



15

10

5

▼文しよを書いたら、見なおしましょう。

• 分かりやすいじゆんじよで書いてあるか。

• つかっていることばは、分かりやすいか。

• 絵やしんは、文しよと合っているか。

5

〈あそび方〉

二つの紙コップに、じゅんばんにまつぼっくりを入れてあそびます。何回つづけてできるか、数えるとしたのしいですよ。

4 友だちと読み合おう。

書いたら、友だちと読み合いました。くふうして
いるなど 思うところを見つけましょう。



ふりかえろう

- 知る 作り方をせつめいするときに つかった、じゅんじよが分かることは 何ですか。
- 読む 「馬のおもちやの作り方」には、どんなせつめいのくふうが ありましたか。
- 書く 作り方をせつめいするときに、どんなことに 気をつけて書きましたか。
- つなぐ 何かの作り方を せつめいするときは、どんなことに 気をつけたいですか。

馬 馬馬馬馬馬馬馬馬馬

首 首首首首首首首首首

工 工工工 図画工作

画 画画画画画画画 画用紙

細 細細細細細細細細細 細長い

科 科科科科科科科科科 生活科

用 用用用用用

角 角角角角角角角角角 四角形



じゅんじよが分かるように書く

- 文しよの組み立てと、せつめいのじゅんじよを考える。
- じゅんじよが分かることを つかつて書く。

ことば

かたかなで書くことば

かたかなで書くのは、つぎのよう
なことばです。

どうぶつの鳴き声

- 犬が、ワンワンほえています。
- ニャーオ
- コケコッコー



5

いろいろなものの音

- 雨戸をガラガラとしました。
- 風が、ビュービューとふいています。
- かねが、ゴーンと鳴りました。

外国から来たことば

- メダルを首にかけてもらいました。
- コップに麦茶を入れます。
- 外国の、国や土地、人の名前
- インドの市場に行きました。
- エジソンは、はつめい家です。

10

5

○ 鳴き声 な

○ 雨戸 あまど

○ 鳴る な

○ 外国 がいこく

○ 麦茶 むぎぢゃ

○ 国 くに

○ 土地 とち

○ 市場 いちば

○ はつめい家 か

▼絵の中のことばを つかって、かたかなで書くことばが 入った文を作りましょう。



鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴
戸 戸 戸 戸 戸
雨 戸 (戸) 戸
茶 茶 茶 茶 茶 茶 茶 茶 茶 茶 茶
麦 麦 麦 麦 麦 麦 麦 麦 麦 麦 麦
麦 茶 (むぎちや) 茶
地 地 地 地 地 地 地 地 地 地 地
市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市
市場 (いちば) 場



聞いて楽しもう

せかい一の話

きたしょうすけ文

やまふくあけみ絵

先生に読んでもらって、おかし話を
楽しみましょう。





▼いちばんおもしろいと思ったところはどこ
ですか。友だちと話しましょう。

142
ページ



🔍 こんな言い方を つかってみま
しょう。

「——が、——するところですよ。」



かん字の 広場

1年生で
ならったかん字

4

数をあらわすことばを つかって、算数の
もんだいを作りましょう。

〈れい〉 七十円のだいこんを 一本買いました。百円
玉を出すと、おつりはいくらでしようか。



九はち

六百元

四たば

千円さつ

一本

五ひき

百円玉

八人

七十円

二ひき

犬

三びき



読む

自分とくらべて、かんそうを書こう

これまでのがくしゅう



じんぶつがしたことや ようすを
思いうかべる（お手紙）………

26 ページ

わたしはおねえさん

3

このお話には、「すみれちゃん」という、二年生の女の子が出てきます。どんなおねえさんなのでしょう。



わたしはおねえさん

いしいむつみ 作

くろいけん 絵

歌を作るのがすきな すみれちゃんが、また一つ、
歌を作りました。こんな歌です。

わたしはおねえさん
やさしいおねえさん

5



○歌^{うた} ○自^じ分

元気なおねえさん

ちっちゃなかりんのおねえさん

一年生の子のおねえさん

すごいでしょ

「おねえさんって、ちよっぴりえらくて やさしくて、
がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。」

この歌を 歌うたびに、すみれちゃんは そう思い
ました。



5



けさも、この歌を 歌っています。

十月の日曜日の、気もちよく晴れた朝でした。

そんな朝に この歌を歌うと、お天気も、すみれちゃんの気もちも、もっとぴかぴかとかがやくように、すみれちゃんには思えるのでした。

そして、えらいおねえさんになって、りっぱ

なことを したくなりました。

「そうだ。」

と、すみれちゃんは言いました。

それから心の中で、「えらいおねえさんは、朝のう



5

10

心こころ

ちに しゅくだいをするんだわ。」と言いました。

同じことをおかあさんに言われると、あまりいい気もちはしません。けれど、自分から思ったときは、すぐくいい気もちです。すみれちゃんには、それがふしぎでした。

すみれちゃんは、つくえの上に、教科書を広げました。ノートも広げました。

でも、しゅくだいをはじめようとしたら、外が気になつてきました。すみれちゃんをつくえのすぐよこには、まどがあつて、花だんが見えます。花だんには、

春にたねをまいた コスモスが、いちめんにさいいてい
ました。

ときどき風がふいて、コスモスの花が、いっせいに
ゆれます。そのようすは、コスモスが みんなで歌を
歌っているようです。

コスモスさん

コスモスさんも歌ってる

ゆらゆらゆらゆら歌ってる

10



お日さまがうれしいって歌ってる

お水がほしいって歌ってる

すみれちゃんの口から、しぜんと そんな歌が出て
きました。

「そうだ、コスモスにお水をやらなくちゃ。」

と、すみれちゃんは言いました。そして、にわに出て、
じょうろで水やりをしました。



さて、その間に、すみれちゃんのへやでは ちよつとしたことが おきていました。

出しっぱなしのすみれちゃんのノートに、二さいになつた妹のかりんちゃんが、えんぴつで、何かをかきはじめたのです。

すみれちゃんが 水やりからもどつてくると、かりんちゃんは、まだ かいているさいちゆうでした。

すみれちゃんはおどろいて、
「かりん、何してるの。」

とききました。

「おべんきよ。」

と、かりんちゃんが言いました。

「もう、かりんたら、もう。」

と、すみれちゃんと言いました。

半分ぐらい、なきそうでした。

もう半分は、おこりそうでした。

すみれちゃんには、自分が、なきたいのか おこり

たいのか分かりませんでした。それで、じっと、ノー

トを見ていました。かりんちゃんがかいた ぐちゃぐ

5



10

ちやのものを 見ていました。

「何よ、これ。」

と、すみれちゃんは言いました。

すみれちゃんは、それが何か、知りたかったわけではありませんでした。けれど、かりんちゃんは、

「お花。」

と答えました。

「お花。これがお花なの。」

そう言うと、すみれちゃんは、かりんちゃんを見ました。かりんちゃんは、「そう。」と言うように うなず

。答^{こた}える

きました。それから、まどの外をゆびさして、もういちど、

「お花。」

と言いました。

そこには、すみれちゃんが 水をやったばかりの
コスモスがさいています。

すみれちゃんは、

もういちど、ノート

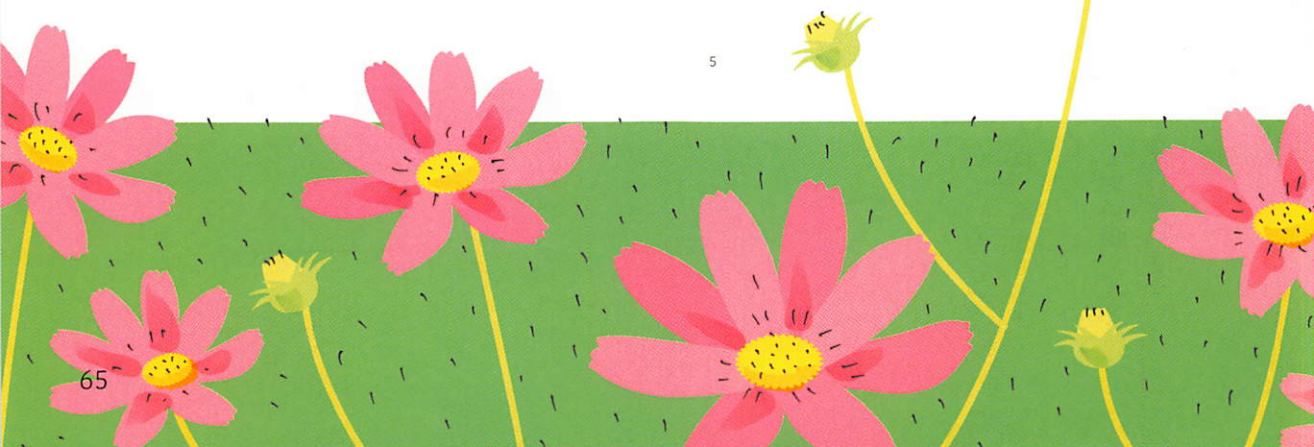
を見ました。じっと。

ずっと。

10



5



「あはは。」

すみれちゃんはわらいだしました。コスモスになんかちっとも見えない　ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきたのです。

「あはは。」

と、かりんちゃんもわらいだしました。

それから、ふたりでたくさんわらってわらって、わらいおわると、すみれちゃんは言いました。

「じゃあ、かりん。こんどは　ねえねがおべんきょうするから、ちよっとどいてね。」

いしいむつみさんは、「わたしちゃん」「つくえの下のおい国」なども書いています。

「いいよ。」

かりんちゃんがいすから下りて、
そのいすに すみれちゃんがすわ
りました。

すみれちゃんは、ふでばこから
けしゴムを出して、かりんちゃん
がかいた絵を けそうとしました。
けしかけて、でも けすのを
やめて、すみれちゃんは、つぎの
ページをひらきました。





見通しをもとう

自分とくらべて かんそつを書こう

- じんぶつがしたことを あらわすことばに、気をつけましょう。
- じんぶつがしたことや 言ったことを、自分とくらべながら読みましょう。

とらえよう

- 「すみれちゃん」は、どんなじんぶつでしょう。読んで、たしかめましょう。
- 「すみれちゃん」のしたことや 言ったことで、心にのこったところを カードに書きぬきましょう。

5

ふかめよう

- 「すみれちゃん」が、つぎのようにしたのは、なぜだと思いますか。
- それで、じっと、ノートを見ていました。(63ページ9行目)

心にのこったところを 書きぬく

それで、じっと、ノートを見ていました。
(63ページ9行目)

心にのこったところは、一つだけではなかったな。



自分とくらべて考える

- 自分ならどうするか。
- 自分にも、同じようなことがあったか。

5



ふりかえろう

- 知る じんぶつのことや 言ったことで、心にのこったことばは どれですか。
- 読む じんぶつと自分をくらべて、にているところや ちがうところはどこでしたか。
- つなぐ 今まで読んだ お話の中で、自分とくらべてみたい じんぶつはいますか。

ひろげよう

● 心にのこった ところについて、かんそうを書きましょう。

まとめよう

● カードから、いちばん 心にのこったところをえらび、自分とくらべましょう。

- すみれちゃんはわらいだしました。
(66ページ2行目)
- けしかけて、でもけすのをやめて、すみれちゃんは、つぎのページをひらきました。
(67ページ8行目)

5

かんそうのれい

わたしは、「わたしはおねえさん」を読んで、「それで、じっと、ノートを見ていました。」というところが心にのこりました。

なぜかという、わたしにも同じようなことがあったからです。わたしが、がんばって作ったすな山を、一年生が、「かいじゅうが来たぞ。」

と言って、こわしてしまったことがありました。わたしは、すみれちゃんと同じ



たいせつ
じんぶつと自分を
くらべて読む

● 心にのこった ことばや文を
書きぬく。

● 自分と にているところや、
ちがうところを考える。

● 自分だったらどうするかを
考えながら読む。

5

この本、読もう

みなさんと 同じぐらいの年の子
が出てくる本です。自分とくらべ
ながら、読んでみましょう。



すみれちゃんの
あついなつ



クリスティーナと
おおきなほこ



とくべつな いちにち



せかいでいちばん
ママがすき



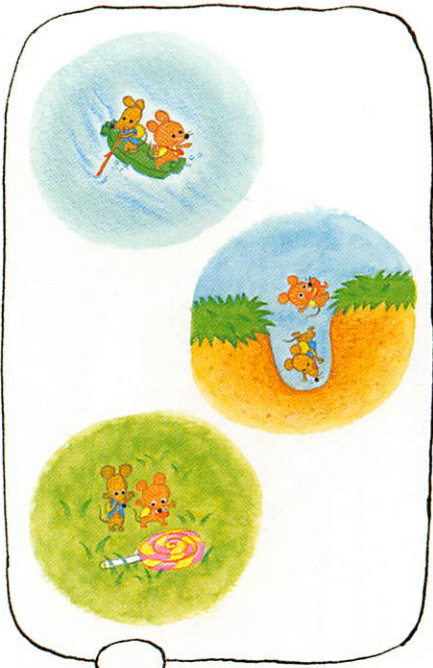
白 自 自 自 自 自 自 自
歌 歌 歌 歌 歌 歌 歌
心 心 心 心 心 心 心
答 答 答 答 答 答 答
こた 答える



まとまりに分けて、お話を書こう

お話のさくしやになろう


二年生になって、すきなお話はふえましたか。こんどは、あなたがさくしやになって、お話を書きましよう。どんなできごとがおこると、楽しいお話になるでしょうか。



たしかめよう

「スイミー」

「二年上までのまなびをたしかめよう」

 上74ページ

 6ページ

がくしゅうのすすめ方

1 絵を見て、お話を考える。

2 まとまりに分けて、お話を
せつめいする。

3 お話を書く。

4 みんなで読み合う。

ふりかえろう



じんぶつは、元気な「ねず子」と、やさしい「ねずた」にしよう。どんなできごとがおこることにしようかな。



1 絵を見て、お話を考えよう。

上の絵を見て、つぎのことを考えましょう。

● ふたりはどんなじんぶつか

● ふたりの名前

● どんなじんぶつか

● どんなできごとがおこるか

読む人が、おどろいたり ふしぎに思ったりする できごとがおおると、楽しいお話になります。

■できごとの流れ

- 何かを見つける
- どこかへ出かける
- だれかと出会う
- こまったことがおこる

10



お話の中でおきたこと。
 164ページ

5

2 まとまりに分けて、お話をせつめいしよう。

「はじめ」「中」「おわり」のじゅんに、考えたお話を
となりの人にせつめいしましょう。

■お話をせつめいするときの れい

はじめ

- じんぶつのしょうかい
- お話のきっかけ



いつも元気なねず子
と やさしいねずたは、
ふたりで秋の木のみを
さがしに行きました。

中

- できごとがおこる



森に入ると、ふくろう
のおじいさんに出会いま
した。おじいさんは、ふ
たりに言いました。――

おわり

- じんぶつがお話のさいご
にどうなったか



ふたりは、たくさん
の木のみをもらって、
野原に帰りました。

10

5

○野の
○原はら



出会ったときには
こわかったふくろうの
おじいさんが、だんだん
やさしくなるのはどう
かな。

3 お話を書こう。

① 「はじめ」は、どんな書きだしにするか、考えましょう。

② 「中」では、できごとのようすを くわしく書きましょう。

• どのじんぶつが 何をしたのかが、分かるように書きましょう。

• じんぶつが話したことはを 考えましょう。「——と言いました。」だけではなく、つぎのことばも つかってみましょう。

🔍 「話すこと」「をあらわすことば

- きく
- たずねる
- 答える
- 知らせる
- 教える
- つたえる
- さげぶ
- など

■お話のれい

ねず子とねずたは、森へつづく道を歩いて
います。秋の木のみをさがしに行くのです。

ふくろうのおじいさんは、こわい顔で、
「ふたりはどうして森にやって来たんだ。」
とたずねました。

「秋になったから、木のみをあつめに来たんだ。」
ねずたが答えると、ふくろうのおじいさんは、

ふたりのかばんは、木のみでいっぱいになりました。そして、それをせおって、歌を歌いながら、野原に帰りました。

おわり

中

はじめ

③ 「おわり」では、ふたりがさいごに どう

なったのかを 書きましょう。

お話を書いたたら、声に出して読み、分かり

にくいところがないかを たしかめましょう。

そして、まとまりごとに絵をかいて、お話

に合う だいいいをつけましょう。

4 みんなで読み合おう。

できあがったら、みんなで読み合

いましょう。おもしろいな、いいな

と思ったところを つたえましょう。

ふたりが たくさん木の
みをもらえて、わたしも
うれしくなったよ。



野野野野野野野野野野
野野野野野野野野野野
野野野野野野野野野野
野野野野野野野野野野



ふりかえろう

- 知る じんぶつが話すとき、「言う」のほかに どんなことばをつかいましたか。
- 書く お話をせつめいするとき、どんなことに 気をつけましたか。
- つなぐ できごとをつたえるときには、どんなことに 気をつけたいですか。



お話を書くとき

- 「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに 分けて書く。
- だれが何をしたのかを よく分かるように書く。
- ようすがよく分かるように、ことばをえらんでつかう。

きせつのことば 4

冬がいつぱい

みのむし



さざんか



つばき



せんりょう



冬をかんじるものを、カードに書きましょう。
 これまでに 書いてきたカードを、友だちと読
 み合ってもいいですね。

はくさい
 はたけで、はくさい
 いが、大きくなって
 いました。はくさい
 が、冬にとれるやさ
 いだと、はじめて
 知りました。



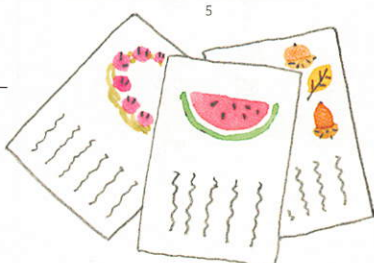
10

みかん
 わたしは、みかん
 を食べると、冬に
 なったなあと思
 います。



15

冬



うめの花



ゆず

ひいらぎ



すいせん



はくちょう



まがも



ゆき

(もんぶしょうしやうか
文部省唱歌)

ゆきや こんこ

あられや こんこ

ふっては ふっては

ずんずん つもる

やまも のはらも

わたぼうし かぶり

かれき のこらず

はなが さく

冬
冬冬冬冬冬
冬ふゆ



詩の楽しみ方を見つけよう

ようすを思いうかべたり、ことばのひびきを楽しんだりしながら読みましょう。

ねこのこ

おおくぼ ていこ

あくび ゆうゆう

あまえて ごろごろ

たまご ころころ

けいと もしやもしや

かくれても ちりん

しかられて しゅん

よばれて つん

ミルクで にゃん

5

おとのはなびら

のろさかん

ピアノのおとに いろがついたら

ポロン ピアノが なるたびに

ポロン ピアノが なるたびに

おとのはなびら へやにあふれて

にわにあふれて

おとのかだんを つくるかしら

5

はんたいことば

はらだなおとも

「うれしい」の

はんたいことば

「いしれう」

「うれしくない」

「かなしい」

みんな

せいかい

5

▼友だちに、詩のおくりものをしましょう。

① おくりものにする詩をきめよう。

これまでに読んだ詩や、新しく読んだ詩から、お気に入りの詩を見つけましょう。

② 詩をカードに書きうつそう。

カードのおもてには、えらんだ詩を書き、うらには、詩をえらんだ理由^ゆを書きましょう。

③ カードをわたそう。

友だちに、カードをわたして、詩を読み合いましょう。

この本、読もう

みみずのたいそう



ぱびゅべぼっつん



▲ポロン

ことば

にたいみのことば、
はんたいのいみのことば

にたいみのことば

友だちに話す。

友だちに言う。



「話す」も「言う」も、声に出し

てことばでつたえることをあらわし
ます。これらは、にたいみのことば
です。

5

1 つぎの — 線のことばとにたいみ

- のことばを考えましょう。
- 新聞紙をひもでしばる。



• うつくしい星空をながめる。



- 新聞紙 しんぶん
- 星空 ほし

はんたいのいみのことば

このケーキは
大きい。

このケーキは
小さい。



「大きい」と「小さい」は、はんたいのいみをあらわすことばです。

一つのことばに、はんたいのいみのことばがいくつもあることがあります。

10

かぶる
ぬぐ

きる
ぬぐ

はく
ぬぐ

はく
ぬぐ

はく
ぬぐ



2 つぎのことばの、はんたいのい

みのことばを考えましょう。

- 上
- 少ない
- 立つ

3 にたいみのことばや、はんたい

のいみのことばの組を作りま

しょう。「ことばのたからばこ」

161ページ

5

星 星星星星星星 星空

少 少少少少 少^{すく}ない

少^{すく}ない



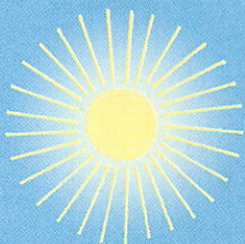
かん字の 広場

1年生で
ならったかん字

5

主語と述語のつながりに気をつけて、公園のようすを書きましよう。
（れい）男の子は、竹うまの名人です。

青空



上

左

右

下

出口：池

出る

かけ足

女の子

入る

休む

かもち

男の子

名人

竹うま





読む

だいじなことばに気をつけて読み、
分かったことを知らせよう

おにごっこ

読
じ
ょう
ほう

本でのしらべ方

4

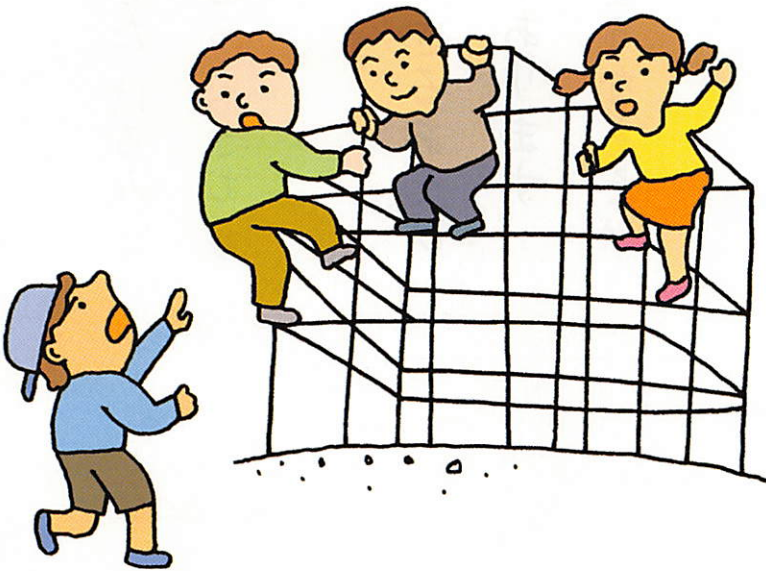
みなさんは、おにごっこをしたこと
がありますか。ここでは、どんなおに
ごっこについて書かれていますか。

これまでのがくしゅう



せつめいのしかたに 気をつけて
読む（馬のおもちの作り方）……

45
ページ



おにごっこ

もりしたはるみ文

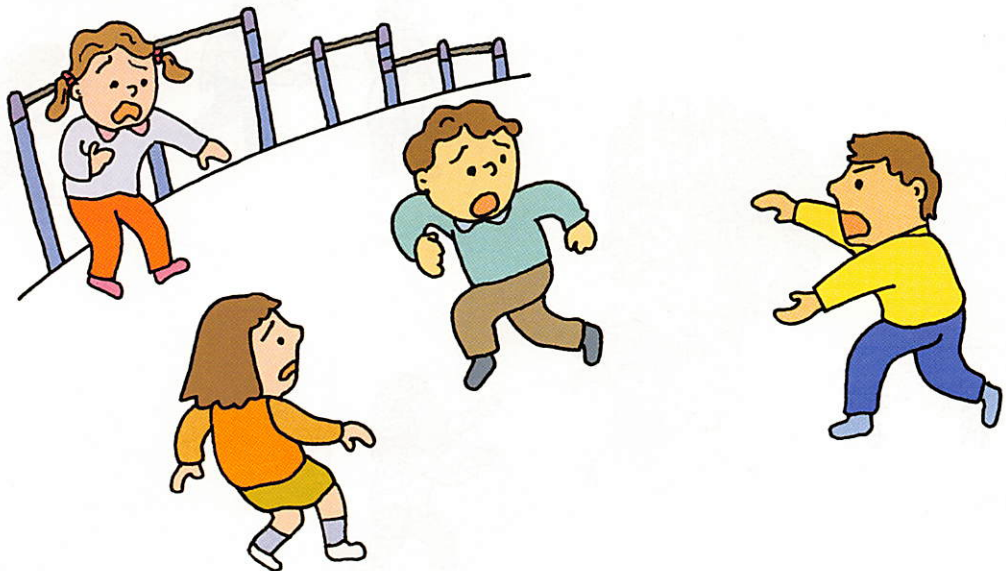
かわむら おさむ 絵

おにごっこは、どうぐがなくても、みんなのできるあそびです。おにごっこには、さまざまなあそび方があります。どんなあそび方があるのでしよう。なぜ、そのようなあそび方をするのでしよう。

あそび方の一つに、「てつぼうよりむこうににげてはだめ」など、にげてはいけないところをきめるものがあります。にげる人が、どこへでも行くことができたなら、おには、つか

まえるのがたいへんです。同じ人が、ずっと、おにをすることになるかもしれない。にげてはいけないところをきめることで、おには、にげる人をつかまえやすくなります。

また、「じめんにかいた丸の中にいけば、つかまらない。」「木にさわっていけば、つかまらない。」のように、にげる人だけが入れるところを作ったり、つかまらなさをきめたりするあそび方もあります。おにになった人の足がはやければ、にげる



人はみんな、すぐにつかまってしまいます。
このようにきめることで、にげる人がかんとんにはつかまらないようになります。
そして、つかれた人も、走るのがにがてな人も、すぐにはつかまらずに、あそぶことができます。

ほかに、「おにが交代たいせずに、つかまった人が、みんなおにになっておいかける。」
というあそび方もあります。このあそび方だと、おにの数がふえていくので、おには、にげる人をつかまえやすくなります。また、

10

5



○ 交代こうだい

○ 走るはしる

にげる人は、おにがひとりするときより、
にげるところをくふうしたり、じょうずに
走ったりしなければなりません。「つかま
りそうだ。」と、ときどきすることもふえて、
おにごっこが、もっとおもしろくなります。
ところが、このあそび方は、ときどき
して楽しいけれど、おにごっこがすぐに
おわってしまいます。そこで、おにがふえ
ても、にげる人をつかまえにくくすること
があります。「おにになった人は、みんな
手をつないでおいかけろ。」ときめるのです。

10

5



おにが三人、四人とふえてくると、手をつ
なぎながらおいかけるのは、たいへんです。
でも、このあそび方だと、手をつないだ
おにには、力を合わせておいかけるという
楽しさがくわわります。また、にげる人は、
おにがふえるにつれて、つかまりにくくな
ります。きまりをつけ足すだけで、おに
ごっこがすぐにおわらずに、長くあそびつ
づけることができます。

このように、おにごっこには、さまざま
なあそび方があります。おにになった人も、

10



5



にげる人も、みんなが楽しめるように、
くふうされてきたのです。あそぶところや
なかまのことを考えてきまりを作れば、
自分たちに合ったおにごっこにすること
もできます。そのときには、みんなできま
りをきめて、それをまもるようにします。
あそびおわったときに、だれもが「楽し
かった。」と思えるようなおにごっこがで
きると思いますね。

5





見通しをもとう

だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう

- だいじなことばは何かを、考えながら読みましょう。
- あそび方が書かれた本を、えらんで読みましょう。

とらえよう

● この文しよは、何についてせつめいしているのか、たしかめましょう。

● 「おにごっこ」に出てくるあそび方の中で、知っているあそび方や、したことがあるあそび方はありますか。

ふかめよう

● 「おにごっこ」には、どんなあそび方が出てきましたか。また、そのあそび方には、どんなおもしろさがあるでしょう。だいじなことばをノートに書きましょう。

5

何についての文しよをかをたしかめる

せつめいする文しようでは、はじめのほうに、何についてせつめいしているのが書かれることがよくあります。

せいりをするときのれい

	3	2	1	あそび方	あそび方のおもしろさ
	(つけ足したあそび方)				



ふりかえろう

- 知る 読みたい本を、どのようにして見つけましたか。
- 読む 「おにごっこ」では、どんなことばがだいじだと思いましたか。
- つなぐ 本を読んで分かったことを知らせるときには、どんなことに気をつけたいですか。

ひろげよう


● おにごっこや、ほかのあそびについて書かれた本を読みましよう。自分たちでできそうなものをえらび、あそび方をグループの友だちにせつめいしましよう。

まとめよう

● にげる人だけが入れるところを作ったり、つかまらないときをきめたりするあそび方を、もっとおもしろくするために、あなたなら、どんなふうをつけ足しますか。

5

本を読んで、せつめいする

- ① 図書館^{かん}で、あそびについて書かれた本を、えらんで読む。 「この本、読もう」  92ページ
- ② だいじなことをメモする。
- ③ グループでせつめいし合う。

ぼくは、「みんなであそぼう」という本で見つけた、「じゃんけんすごろく」についてせつめいします。これは、じゃんけんをして、かったほうが先へすすみ、ゴールを目ざすあそびです。はじめにじゅんぴすることは、――。



10

5



だいじなことばや文を
見つける

- つぎのことをたしかめて、だいじなことばや文を見つけましょう。
- 何について書かれた文でしょうか。
- 自分が知りたいことは何か。

走 走

走走走走走走
交交交交交交

走る
交代

5



みんなであそぼう



世界の子ども遊び



運動場のあそび



あそべる! たのしい!
あやとり

この本、読もう
いろいろなあそびをしようかいし
ている本です。ほかに、図書館で
さがしてみましよう。





じょうほう




しらべるときにつかおう

本でのしらべ方

「図書館たんけん」

「メモをとるとき」

「知りたいことの見つけ方、しらべ方」

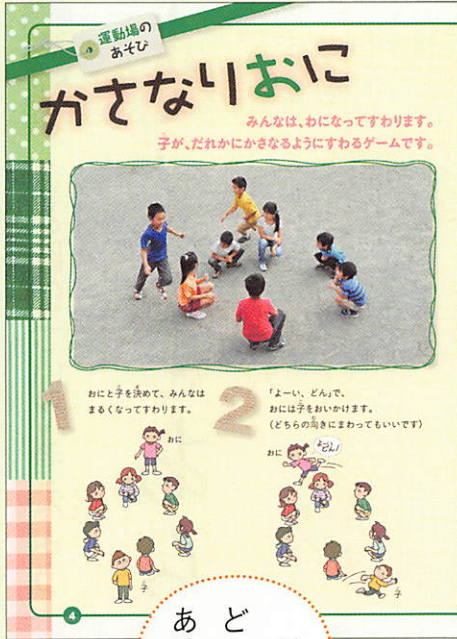
-  上28ページ
-  上78ページ
-  上138ページ

知りたいことをたしかめて読む

知りたいことをはつきりさせて、それが書いてあるところを読みましよう。

分かったことなどをメモする

分かったことといっしょに、ひつしゃの名前とだいいいをメモしましよう。



「あそび方」は、どこに書いてあるかな。



「あそび」かきなりおに

「あそび方」

① おにと子をきめて、みんなはまるくなってすわります。

たけいしろう「運動場のあそび」

ようすをあらわすことは

下の絵のように、雨がふっています。

そのようすをあらわしたいとき、どんな
言い方があるでしょうか。

- 雨が、はげしくふっている。



「はげしく」は、雨のふり方がどれぐらいかをあらわすことばです。「雨のふり方がはげしい」と言いかえることもできます。

つぎのような言い方もあります。

・雨が、ざんざんふっている。

「ざんざん」は、ことばのひびきによって、ようすをあらわすことばです。雨が、いきおいよくふるようですが、ことばのかんじからつたわります。雨がふる音を、そのままことばにしてあらわすこともできます。

- 雨が、たきのようにふっている。
- 雨が、バケツをひっくりかえした
みたいにふっている。

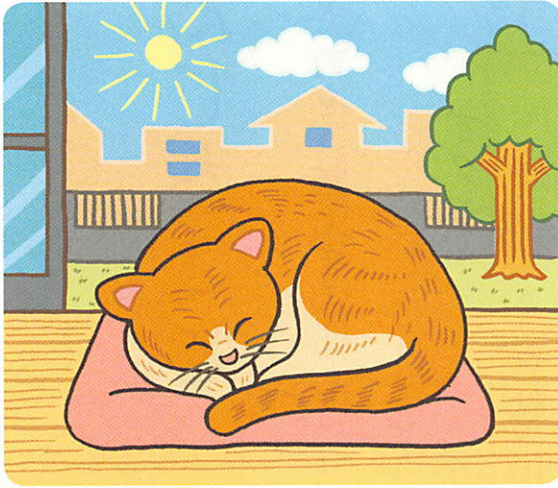


右の二つの文は、「——ように」「——みたいに」というたとえをつかって、ようすをあらわす言い方です。一つ目の文では、雨のふり方を、高いところから水がいきおいよくながれおちる「たき」にたとえています。

二つ目の文では、同じくひどくふる雨を、バケツに

たっぷりと入っている水が、いちどに外へながれ出て
しまおうようすにたとえています。

▼ようすをあらわす言い方のうち、どれかをつかって、
つぎの絵にあらわされているようすを文にしてみましよう。





詩しを作ろう

見たこと、かんじたこと

みなさんと同じ二年生が作った詩を、読んでみましょう。

二じゆうとびとんだ

おおた ことらう

足を高くあげて

おもいつきりとんだ

なわをはやくまわして

びゅんびゅんとんだ

れんぞくでとんだ

うれしいな

たのしいな

10

オクラ

やね りお

はっぱのおもては

つるつる

うらは ざらざら

はじっこぎざぎざ

わたしのオクラ

おおきくなあれ

5

きれいな雲

てらだ ももか

家から空を見ると

雲がきれいな

ピンク色になっていた

ずっと ずっと

このままがいいと思った

5

詩は、見たことや聞いたこと、思ったことやかんじたことなどをみじかく書きあらわしたものです。

あなたも、詩を書いてみましょう。



遠足に行く前の、どきどきした気持ちを書こう。

おなががすいたときのこと、詩になるのかな。



書いた詩を、友だちと読み合いましょう。「おもしろいな」「ようすや気もちがよく分かるな。」と思ったところを、友だちにつたえましょう。

5



詩に書くことを見つける

- 見たこと
- 聞いたこと
- さわったもの
- 食べたもの
- やってみたこと
- そのときにかんじたこと

○ 遠足^{えんそく}

遠^{えん}
遠遠遠遠遠遠遠遠遠
遠足^{えんそく}



話す・聞く

つたえたいことをきめて、はっぴょうしよう

楽しかったよ、二年生

二年生も、もうすぐおわりです。

たくさん学んだり、あそんだりしましたね。

思い出して、話しましょう。



たしかめよう

「二年上までのまなびをたしかめよう」



5ページ

がくしゅうのすすめ方

1 一年をふりかえって、話すことをきめる。

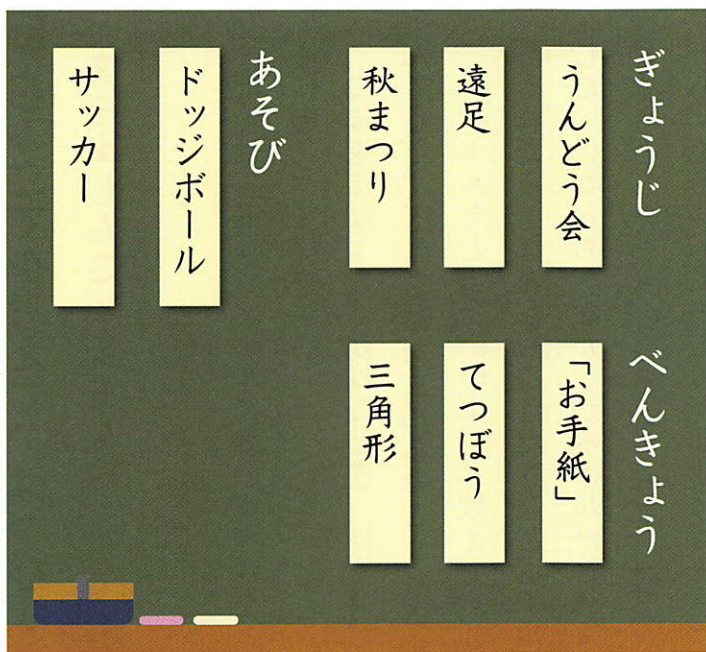
2 組み立てをを考えて、はっぴょうする。

3 かんそうをつたえ合う。

ふりかえろう

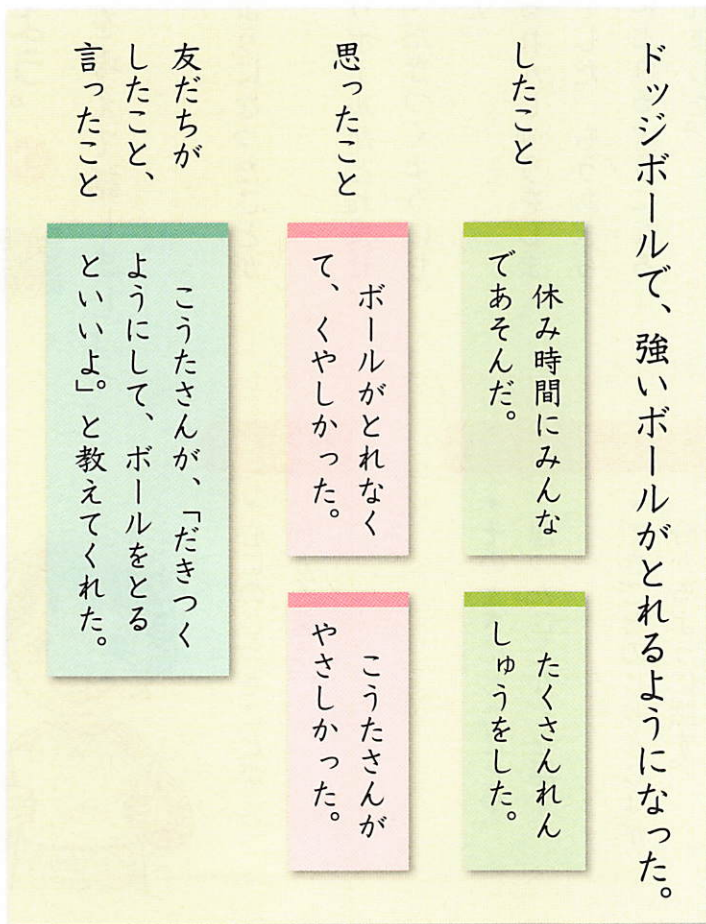
1 一年をふりかえって、話すことをきめよう。

学校でのことをカードに書いて、みんなで黒板にはりましょう。その中から一つえらび、自分が話したいことについて書き出しましょう。



10

5



5



○強い
●黒板

2 組み立てを考えて、はっぴようしよう。



書き出したことをもとに、じゅんじよを考えて話しましょう。

ぼくは、ドッジボールで強いボールをとれるようになったことが、心へのこっぺいます。

二年生になったばかりのとき、ぼくは、あまりボールがとれませんでした。それを見た友だちのこうたさんが、「だきつくようにして、ボールをとるといいよ。」と教えてくれました。

それから、なんどもこうたさんとボールをとるれんしゅうをしました。けれども、なかなかボールがとれませんでした。もうあきらめようとしたとき、こうたさんが、「ぜったいにとれるようになるから、もう少しれんしゅうしよう。」と言ってくれました。

その後、またこうたさんとれんしゅうをして、やっとボールをとれるようになりました。

なかなかボールがとれなくてくやしかったけれど、はじめて強いボールがとれたときは、とてもうれしかったです。

これで、はっぴようをおわります。

15

10

5

おわり

• まとめのことを言う。

中

• そのときにしたことや、思ったことなどを話す。
• できごとのじゅんじよが分かるように話す。

5

はじめ

• 心へのこったことが何かを言う。





ふりかえろう

- 知る はっぴょうするとき、どんなことに気をつけましたか。
- 話す・聞く 話すことや組み立てを、どのようにきめましたか。
- つなぐ はっぴょうしてよかったと思ったのは、どんなことですか。

強
強強強強強強強
強つよ

話すときには、つぎのことも考えましょう。

- 声の大きさはどうするか。
- どこを見て話すか。
- どれぐらいのはやさで話すか。

いちばんうれしかった
ことは、大きな声でゆっ
くり話すようにしよう。



• 少すこし

3 かんそうをつたえ合おう。

友だちのはっぴょうを聞いて、よかった
ところをつたえましょう。

5



たいせつ
つたえたいことをきめて、
はっぴょうする

- 何について話すのかを考え、そのときのこ
とをくわしく書き出す。
- 聞きとりやすい声の大きさやはやさで話す。

5

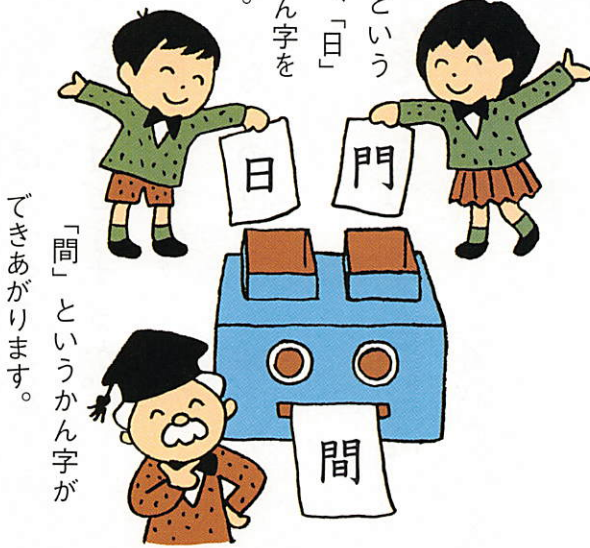


カンジューはかせの

大はつめい

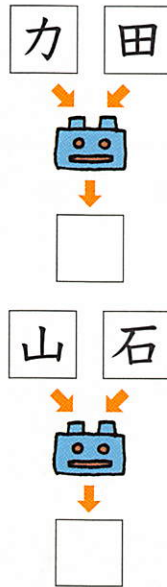
かん字の天才、カンジューはかせが、
二つのかん字を合体させるきかいは
はつめいしました。

「門」という
かん字と、「日」
というかん字を
入れます。



「間」というかん字が
できあがります。

1 つぎのかん字を入れると、どん
なかん字ができるでしょう。



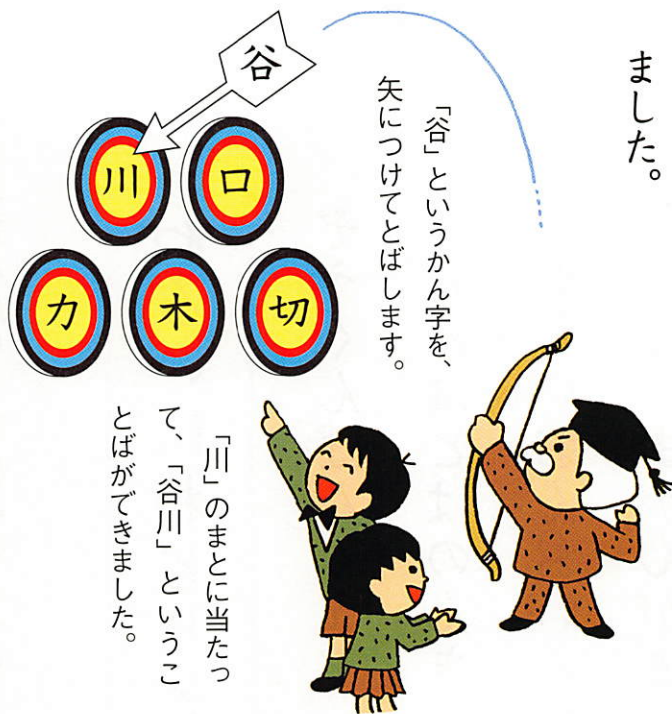
2 つぎのかん字ができるためには、
はじめに、どんなかん字を入
ればいいでしょう。



○門^{もん} ●合^が体^{たい} 天^{てん}才^{さい}

カンジーはかせは、二つのかん字
でことばをつくる弓矢もはつめいし
ました。

「谷」というかん字を、
矢につけてとばします。



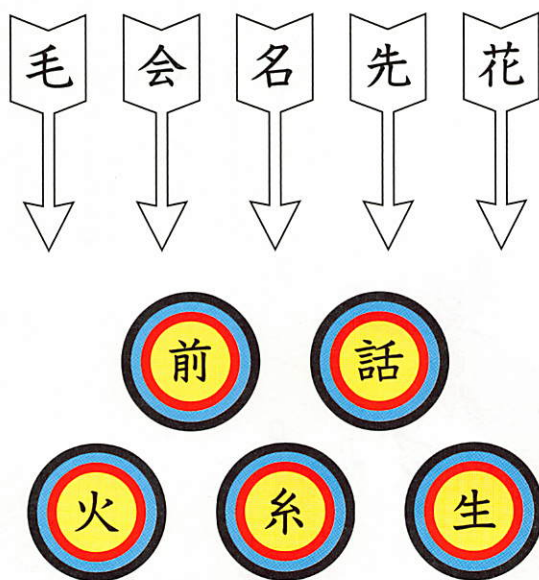
「川」のまあとに当たっ
て、「谷川」というこ
とばができました。

才
才才才
門
門門門門門門門門門門
門もん

天才さい
弓
弓弓弓
矢
矢矢矢矢

弓矢ゆみや
谷
谷谷谷谷谷谷谷
谷た

3 つぎの矢を弓でとばすと、どの
まあとに当たるでしょうか。どん
なことばができますか。



○谷た ○弓ゆみや
○矢や

ことば

ことばを楽しもう

上から読んだり、下から読んだりしましょう。

↑
わるいにわとりとわに
↓
いるわ

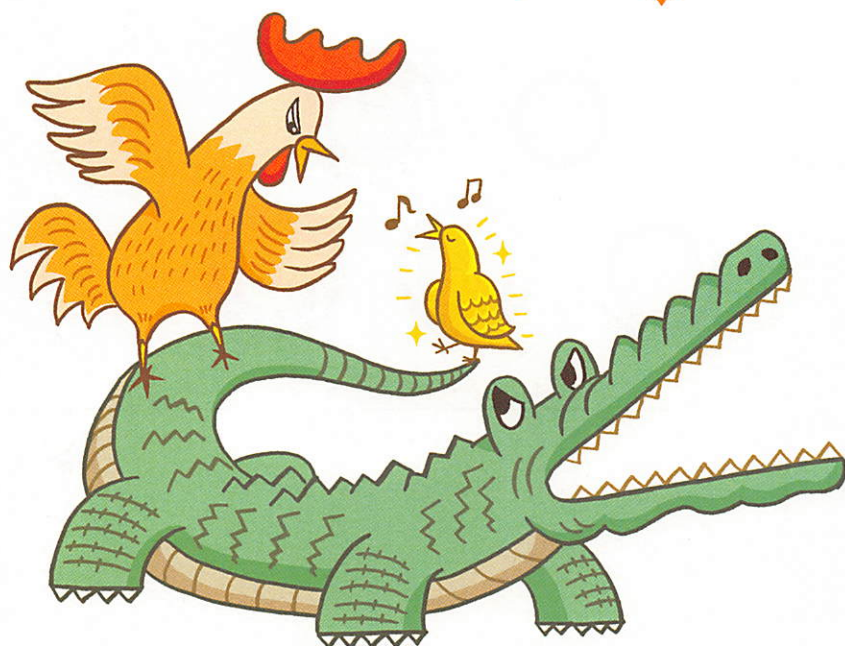
ぞうくんぱんくうぞ

きんのはとはのんき

このらいおんおいらのこ

たったいまがながまいたった

いしづちひろ作





読む

読んで、かんじたことを
つたえ合おう

スーホの白い馬

5

モンゴルの草原にすむ、「スーホ」という少年と白い馬のお話です。絵と文しようからそうぞうを広げて読みましよう。

これまでのがくしゅう



じんぶつがしたことや ようすを

思いうかべる（お手紙）……………26 ページ



じんぶつと自分を くらべて読む

（わたしはおねえさん）……………70 ページ



スーホの白い馬

おおつか ゆうぞう 作

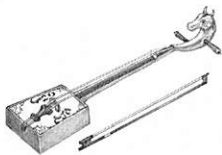
リー・リー・シアン 絵

中国ちゆうごくの北きたの方、モンゴルには、広い草原が広がっています。そこにすむ人たちは、おかしから、ひつじや牛や馬などをかって、くらしていました。

このモンゴルに、馬頭琴ばとうきんというがっきがあります。がっきのいちばん上が、馬の頭の形をしているので、馬頭琴というのです。いったい、どうして、こういうがっきができたのでしょうか。

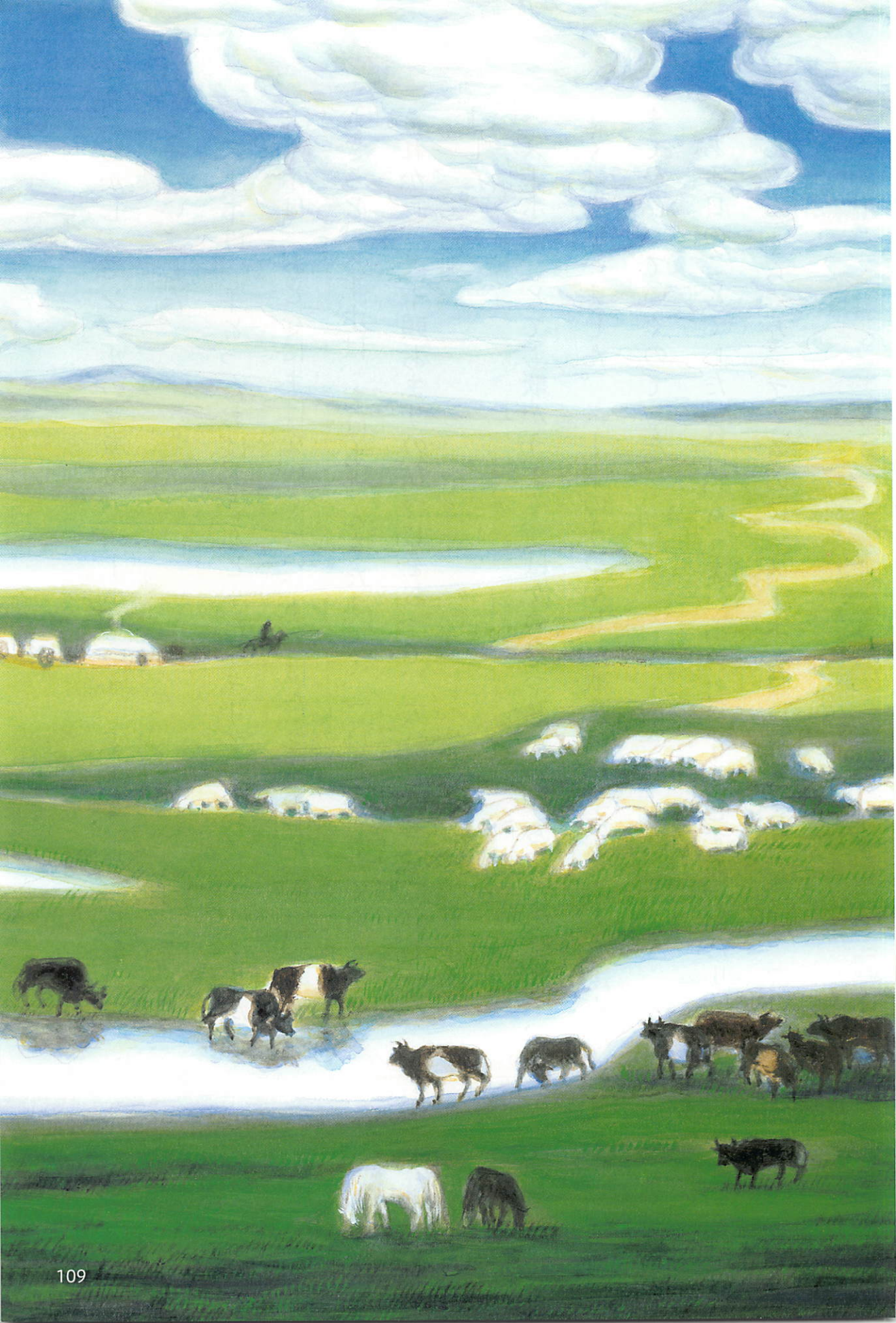
それには、こんな話があるのです。

馬頭琴



○牛うし ○北きた

●少年しょうねん
●草原そうげん



むかし、モンゴルの草原に、スーホという、まずしいひつじかいの少年がいました。

スーホは、年とったおばあさんとふたりきりで、くらししていました。スーホは、おとなにまけないくらい、よくはたらきました。毎朝、早くおきると、スーホは、おばあさんをたすけて、ごはんのしたくをします。それから、二十頭あまりのひつじをおって、広い広い草原に出ていきました。

スーホは、とても歌がうまく、ほかのひつじかいたちにたのまれて、よく歌を歌いました。スーホのうつくしい歌声は、草原をこえ、遠くまでひびいていくのでした。

ある日のことでした。日は、もう遠い山のおこうにしずみ、あたりは、ぐんぐんくらくらくなってくるのに、スーホが帰ってきません。

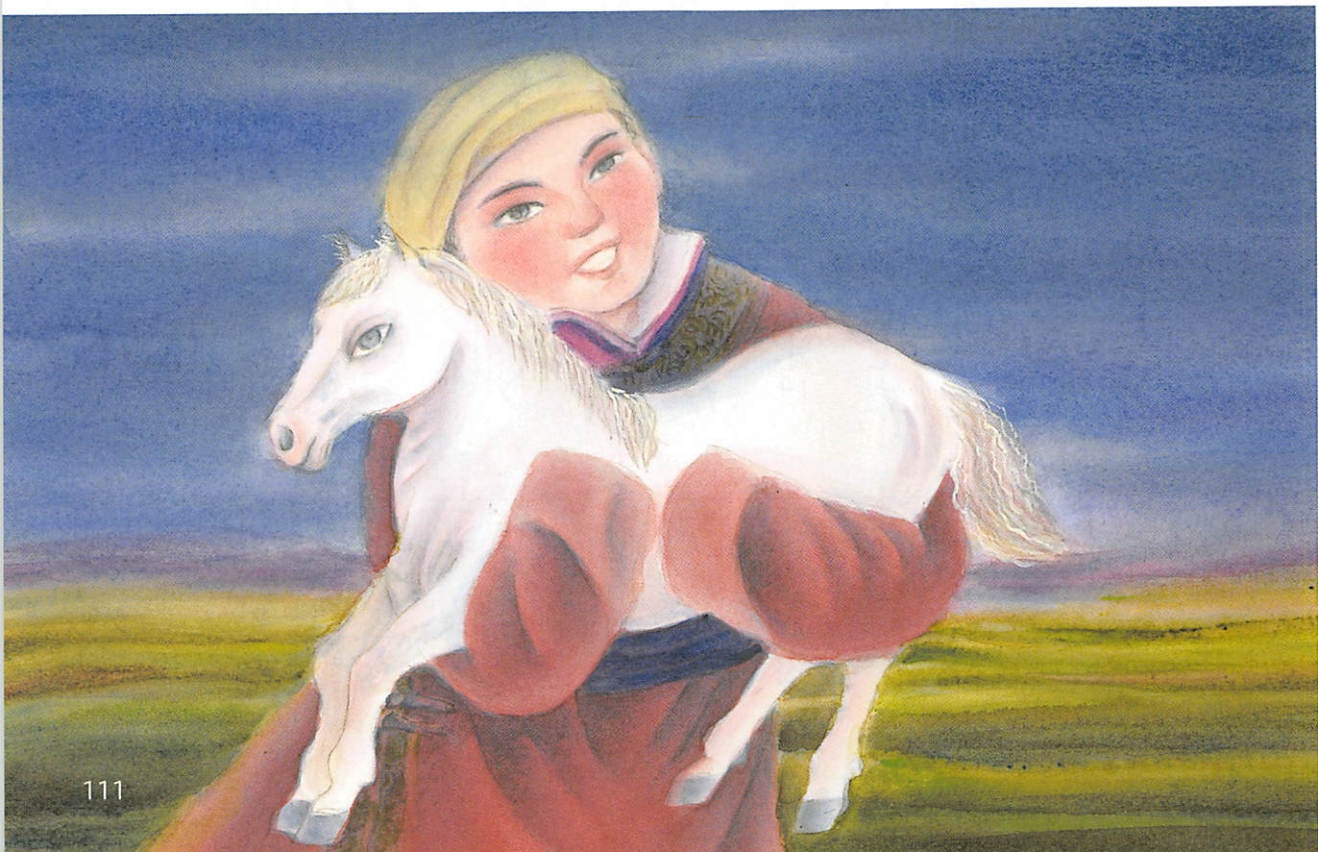
おばあさんは、しんぱいになってきました。
近くにすむひつじかいたちも、どうしたのだ
ろうと、さわぎはじめました。

みんながしんぱいでたまらなくなったころ、
スーホが、何か白いものをだきかかえて、
帰ってきました。

みんながそばにかけよってみると、それは、
生まれたばかりの、小さな白い馬でした。

スーホは、にこにこしながら、みんなに
わけを話しました。

「帰るとちゅうで、子馬を見つけたんだ。
これが、じめんにたおれて、もがいていた



んだよ。あたりを見ても、もちぬしらしい人もいないし、おかあさん馬も見えない。ほうっておいたら、夜になって、おおかみに食べられてしまうかもしれない。それで、つれてきたんだよ。」

日は、一日一日と過ぎていきました。スーホが、心をこめてせわしたおかげで、子馬は、すすくとそだちました。体は雪のように白く、きりつと引きしまって、だれでも、思わず見とれるほどでした。

あるばんのこと、ねむっていたスーホは、はっと目をさしました。けたたましい馬の鳴き声と、ひつじのさわぎが聞こえます。スーホは、はねおきると外にとび出し、ひつじのかこいのそばにかけつけました。見ると、大きなおおかみが、ひつじにとびかかろうとしています。そして、わかい白馬しろうまが、おおかみの前に立ちふさがって、ひっしにふせいでいました。

• 食くわれる

○ 引ひきしまる

• 兄きょうだい
• 弟だい

スーホは、おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけよりました。白馬は、体中あせびっしよりでした。きっと、ずいぶん長い間、おおかみとたたかっていたのでしょう。

スーホは、あせまみれになった白馬の体をなでながら、兄弟に言うように話しかけました。

「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」

月日は、とぶようにすぎていきました。

ある年の春、草原いっただいに、知らせがったわってきました。このあたりをおさめているとのさまが、町



でけい馬の大会をひらくというのです。そして、一等とうになったものは、とのさまのむすめとけっこんさせるというのでした。

この知らせを聞くと、なかまのひつじかいたちは、スーホにすすめました。

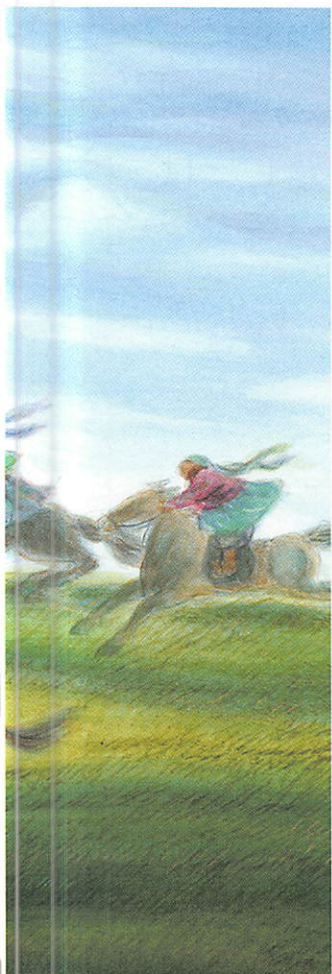
「ぜひ、白馬にのって、けい馬に出てごらん。」

そこでスーホは、白馬にまたがり、ひろびろとした草原をこえて、けい馬のひらかれる町へむかいました。

けい馬がはじまりました。たくましいわかものたちは、いっせいにかわのむちをふりました。馬は、とぶようにかけます。でも、先頭を走っていくのは、白馬です。スーホののった白馬です。

「白い馬が一等だぞ。白い馬ののり手

けい馬ば



をつれてまいれ。」

とのさまはさけびました。

ところが、つれてこられた少年を見ると、まずしいみなりのひつじかいではありませんか。そこで、とのさまは、むすめのむこにするというやくそくなどは、知らんふりをして言いました。

「おまえには、ぎんかを三まいくれてやる。その白い馬をここにおいて、さっさと帰れ。」

スーホは、かっとなって、おちゅうで言いかえしました。

10

5



「わたしは、けい馬に來たのです。馬を売りに來たのではありません。」

「なんだと、ただのひつじかいが、このわしにさからうのか。ものども、こいつをうちのめせ。」

とのさまがとなり立てると、家來たちが、いっせいに、スーホにとびかかりました。スーホは、おおぜいになぐられ、けとばされて、氣をうしなっていました。

とのさまは、白馬をとり上げると、家來たちを引きつれて、大いばりで帰っていきました。

スーホは、友だちにたすけられて、やっとうちまで帰りました。

10

5



スーホの体は、きずやあざだらけでした。おばあさんが、つきつきりで手当てをしてくれました。おかげで、何日かたつと、きずもやっとなおってきました。それでも、白馬をとられたかなしみは、どうしてもきえません。白馬はどうしているだろうと、スーホは、そればかり考えていました。白馬は、どうなったのでしょうか。

すばらしい馬を手に入れたとのさまは、まったくいい気もちでした。もう、白馬をみんなに見せびらかしたくてたまりません。

そこで、ある日のこと、とのさまは、おきやくをたくさんよんで、さかもりをしました。そのさいちゅうに、とのさまは、白馬にのって、みんなに見せてやることにしました。

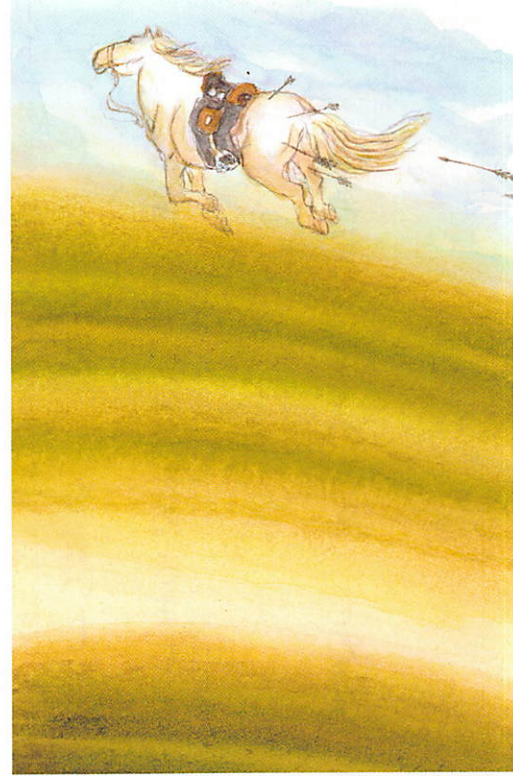
家来たちが、白馬を引いてきました。とのさまは、白馬にまたがりました。



そのときです。白馬は、おそろしいいきおいではね上がりました。とのさまは、じめんにころげおちました。白馬は、とのさまの手からたづなをふりはなすと、さわぎ立てるみんなの間をぬけて、風のようにかけだしました。

とのさまは、おき上がろうともがきながら、大声でどなりちらしました。

「早く、あいつをつかまえろ。つかまらないなら、弓でいころ



してしまえ。」

家来たちは、いっせいにおいか
けました。けれども、白馬にはと
てもおいつけません。家来たちは、
弓を引きしぼり、いっせいに矢を

はなちました。矢は、うなりを立ててとびました。白馬のせには、つぎ
つぎに、矢がささりました。それでも、白馬は走りつづけました。

そのばんのことです。スーホがねようとしていたとき、ふいに、外の
方で音がしました。

「だれだ。」

ときいてもへんじはなく、カタカタ、カタカタと、もの音がつづいて
います。ようすを見に出ていったおばあさんが、さけび声を上げました。

「白馬だよ。うちの白馬だよ。」

スーホははねおきて、かけていきました。

見ると、本当に、白馬はそこにいました。けれど、その体には、矢が何本もつきささり、あせが、たきのようにながれおちています。白馬は、ひどいきずをうけながら、走って、走って、走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。

スーホは、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきました。きず口からは、血がふき出しました。

「白馬、ぼくの白馬、しなないでくれ。」

10

5



でも、白馬は、弱りはてていました。いきは、だんだん細くなり、目の光もきえていきました。

そして、つぎの日、白馬は、しんでしまいました。

かなしさとかやしきで、スーホは、いくばんもねおれませんでした。でも、やっとあるばん、とろとろとねむりこんだとき、スーホは、白馬のゆめを見ました。スーホがなでてやると、白馬は、体をすりよせました。そして、やさしくスーホに話しかけました。

「そんなになさしないでください。それより、わたしのほねやかわや、すじや毛をつかって、がっきを作ってください。そうすれば、わたしは、いつまでもあなたのそばにいられますから。」

スーホは、ゆめからさめると、すぐ、そのがっきを作りはじめました。ゆめで、白馬が教えてくれたとおりに、ほねやかわや、すじや毛を、

。弱^{よわ}る

むちゅうで組み立てていきました。

がっきはできあがりました。これが馬頭琴です。

スーホは、どこへ行くときも、この馬頭琴をもっていきました。

それをひくたびに、スーホは、白馬をころされたくやしきや、白馬にのって草原をかけ回った楽しさを思い出しました。そして、スーホは、自分のすぐわきに白馬がいるような気がしました。そんなとき、がっきの音は、ますますうつくしくひびき、聞く人の心をゆりうごかすのでした。

やがて、スーホの作り出した馬頭琴は、広いモンゴルの草原中に広まりました。そして、ひつじかいたちは、夕方になると、よりあつまって、そのうつくしい音に耳をすまし、一日のつかれをわすれるのでした。

10

5

•音^ね

おおつかゆうぞうさんは、外国のお話を、日本語にして書いています。「長くつ下のピッピ」「小さなスプーンおばさん」などがあります。





見通しをもとう

読んで、かんじたことをつたえ合おう

- どうじょうじんぶつのようなすがあらわれていることばに、気をつけましょう。
- お話を読んで心をうごかされたところを、つたえ合いましょう。

お話のじゆんにたしかめる

つぎのようなじゆんで、たしかめましょう。

じんぶつのようなすがあらわれていることばに気をつけて読むと、そうぞうが広がります。

- ①「スーホ」と「白馬」との出会い
- ② ひつじをおおかみからまもる「白馬」
- ③「白馬」を「とのさま」にとり上げられた「スーホ」
- ④「とのさま」のところからにげ出す「白馬」
- ⑤「スーホ」のところに帰ってきた「白馬」
- ⑥ 馬頭琴を作る「スーホ」

とらえよう

- どうじょうじんぶつとできごとをたしかめましょう。
- はじめて、「スーホの白い馬」を読んで、どんなことが強く心にのこりましたか。

5

ふかめよう

- お話のじゆんに、どうじょうじんぶつのことや言ったことをたしかめましょう。そのときの、じんぶつのようなすもそうぞうしましょう。



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

どうしようじんぶつのようにすがよくあらわれているかと思つたことばを、あげましょう。
 友だちと自分のかんそうで、「にているな。」と思つたのはどんなことですか。
 読んだお話について、友だちとどんなことを話したいですか。

ひろげよう

● ノートに書いたことを、グループで話しましょう。友だちは、お話のどこに、どんなかんそうをもつたでしょうか。

まとめよう

● 「スーホ」や「白馬」のしたことや言ったことで、あなたがいちばん心をうごかさされたのはどこですか。その理由は何ですか。ノートに書きましょう。

話し方のれい

わたしは、スーホが、「白馬、ぼくの白馬、しなないでくれ。」と言つたところに、心をうごかされました。

それは、「ぼくの白馬」という言い方に、けがをした白馬を見たスーホの、白馬を思う気もちがとも出ているとかんじたからです。

ぼくも、同じところで、スーホの、白馬を大すきな気もちをかんじました。

理由

心をうごかされたところ





読んで、かんじたことを
つたえ合う

● お話の、どのことばや文からか
んそうをもったかをはつきりさ
せる。

● 友だちのかんそうを聞いて、い
ろいろなかんじ方や考え方があ
ることを知る。

5

この本、読もう

いろいろな国のむかし話や、その
土地につたわるお話を読んでみま
しょう。



ラン パン パン

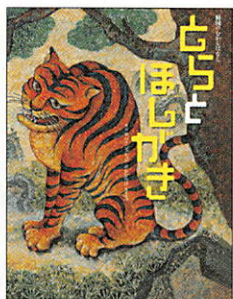
チンパンジーと
さかなどろぼう



王さまと九人のきょうだい



とらとほしがき



北 北北北北北
牛 牛牛牛牛
引 引引引引

北^{きた} 牛^{うし}
引^ひきしまる

売 売売売売売
弱 弱弱弱弱弱
弱^{よわ}る



思いをつたえる手紙を書こう

すてきなところをつたえよう

あつというまの一年間。友だちといろいろなことをして
すごしましたね。その中で見つけた、友だちのすてきな
ところを、手紙でつたえましょう。



たしかめよう

「二年上までのまなびをたしかめよう」



かくしゅうのすすめ方

1 一年をふりかえって、つたえる
ことをきめる。

2 手紙を書く。

3 手紙を読みかえす。

4 手紙を読んで、へんじを書く。

ふりかえろう

1 一年をふりかえって、つたえることをきめよう。

友だちといっしょにしたことや、友だちがしていたことを
思い出しましょう。



だれに、どんなすてきなところをつたえたいですか。友だちのすてきなところと、あなたがそうかんじたときのことを、書き出しましょう。



2 手紙を書こう。

130ページにある、やすださんとなかはらさんの手紙の書き方で、いいなと思うところはどこですか。みんなでたしかめてから、手紙を書きましよう。

友だちが読みやすいように、ていねいに字を書きましよう。

にしのゆうやさん
やさしい

- ・計算を教えてくれた。
- ・1年生がころんだとき、ほけん室につれて行ってあげていた。

○計^け算

にしの ゆうやさん

ゆうやさんのすてきなところは、いつもやさしいところだと思います。

ろう下で一年生がころんだとき、ゆうやさんは、すぐに声をかけて、ほけん室につれて行ってあげていました。わたしは、どうしようと思いつながら見ているだけだったので、すてきなと思いました。これからも、やさしいゆうやさんでいてくださいね。

やすだれい

10

5

ささき、まなさん

まなさんは、サッカーのれんしゅうをがんばっています。

朝のスピーチで、サッカーチームのれんしゅうを十月からずっと休んでいないと言っていましたね。まなさんが、サッカーをがんばっていることが、とてもよくつたわってきました。

こんど、ぼくともサッカーをしてください。

なかはらけん

10

5

すてきなところと、
そう思ったときのことを
分けて書いているのが
読みやすいよ。



3 手紙を読みかえそう。

書きおわったら、読みかえしましょう。

- 主語と述語のつながりは、合っていますか。
 - 字のまちがいはありませんか。
 - ならったかん字をつかっていますか。
 - 丸（○）や点（・）を正しくつかっていますか。
- まちがいを直してから、手紙をわたしましょう。

さいごに、よびかける
ようなことばを書いてい
るのも、いいね。



直す



たいせつ

読む人に分かりやすい
文しようを書く

- ないようごとに、まとまりを作る。
- 書いた文しようを読みかえして、
まちがいがなにかをたしかめる。

4 手紙を読んで、へんじを書こう。

手紙をもらったたら、カードにへんじを書きます。手紙を読んで思ったことや、あいてのいいところを書きましょう。



やすだ れいさん

お手紙をありがとうございます。
れいさんは、いつも元気な声であい
さつしているところがすてきです。

にしの ゆうや

なかはら けんと さん

スピーチをおぼえていてくれて、
うれしかったです。いっしょに
サッカーをするのが楽しみです。

ささき まな



ふりかえろう

- 知る 手紙を読みかえして、どんなところを直しましたか。
- 書く 読む人のことを考えて、どんなことに気をつけて書きましたか。
- つなぐ 手紙を書いたり、もらったたりして、どんな気もちになりましたか。

計 計 計 計 計 計 計 計 計 計
計 計 計 計 計 計 計 計 計 計

直

直 直 直 直 直 直 直 直 直 直

直 直
直 直
直 直
直 直
直 直

かくしゅうを 広げよう

ぶんく




- 「たいせつ」のまとめ……………134
- げんこう用紙のつかい方……………138
- 本のせかいを広げよう……………140
- せかい一の話 きたしゅうすけ……………142
- ジオジオのかんむり きしだえりこ……………148
- これまでに ならったかん字……………156
- この本で ならうかん字……………159
- ことばのたからばこ……………161



「たいせつ」のまとめ

- 二年生でがくしゅうする、大切なことをまとめています。
- たしかめたり、ほかのがくしゅうでつかったりしましょう。
- できるようになったことを、くうらんに書きましょう。

 二年上 だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりする

- だいじなことはなにかをかんがえて話す。 など

しつもんをして、あいての考えをひき出す

- あいての考えをくわしく聞くために、だいじなことはなにかを考えて、しつもんする。 など

考えを出し合い、話し合う

 38 ページ

- 話し合いたいこと（わだい）は何か。なに

- 友だちの考えのよいところや、じぶんの考えと同じところとちがうところはどこか。

つたえたいことをきめて、はつぴようする


 103 ページ

- 何について話すのかを考え、そのときのことをくわしく書き出す。

- 聞きとりやすい声の大きさやはやさで話す。

10

5

 まな 学んだことをいかそう

- いろいろながくしゅうの中で、ふたりで話したり、グループで話したりするとき。
- みんなの前で話をするとき。

できるようにになったこと〈話す・聞く〉

5



 二年上 日記に書くこと

- したこと ● 見たこと ● 思ったこと など
- かんさつしたことを書く

- 見たり、さわったり、においをかいだりして、ていねいにかんさつする。 など

組み立てをを考えて書く

- 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てて書く。

じゅんじよが分かるように書く

 49ページ

- 文しょうの組み立てと、せつめいのじゅんじよを考える。

- じゅんじよが分かることばをつかって書く。

お話を書くとき

 75ページ

- 「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分けて書く。

- だれが何をなにしたのかがよく分かるように書く。 など

詩しに書くことを見つける

 99ページ

- 見たこと ● 聞いたこと ● そのときにかんじたこと など

読む人に分かりやすい文しょうを書く


 131ページ

- 書いた文しょうを読みかえして、まちがいがないかをたしかめる。 など

15

10

5

 学まなんだことをいかそう

- 何かの作り方つくりかたやすすめ方を分かりやすく知らせるとき。
- ふだん、お話や詩を書くとき。
- 人に読んでもらう文しょうを書くとき。

5

できるようになったこと〈書く〉



せつめいする文しよを讀むとき

二年上 せつめいする文しよを讀む

- じゆんじよやわけに氣をつけて讀む。

読んで、考えをもつ
● 讀んで分かったことと、じぶんの知っていることをくらべる。 など

せつめいのしかたに氣をつけて讀む

45ページ

- 「まず」「つぎに」などのことばを見つけて、じゆんじよをとらえる。 など

だいじなことばや文を見つける

92ページ

- 何なにについて書かれた文しようか。
- 自分じが知りたいことは何か。

お話を讀むとき

二年上 おはなしをたしかめる


- とうじようじゆんじよつをたしかめる。 など

あらすじをまとめる
● じゆんじよがしたことやできごとを、みじかいことばで書く。 など

15

10

5

 学まなんだことをいかそう

- 時間じかんのじゆんじよにそってかわっていくもののかをたしかめるとき。
- 知りたいことを、本を讀んでたしかめるとき。

5

できるようになったこと
〈せつめいする文しよを讀む〉



本をしようかいする

本をしようかいするときは、つぎのようなことを話す。

- 書いた人と、本のだいいい。
- すきなところや、おすすめしたいところ。 など

じんぶつがしたことやようすを思いうかべる

↓ 26 ページ

- お話にあることばや絵から、じんぶつがしたことやようすを考える。

- じんぶつが、そのことをしたり言ったりしたのはどうしてなのかを考える。

じんぶつと自分をくらべて読む

↓ 70 ページ

- 心にのこったことばや文を書きぬく。
- 自分とにているところや、ちがうところを考える。
- 自分だったらどうするかを考えながら読む。

読んで、かんじたことをつたえ合う

↓ 126 ページ

- お話の、どのことばや文からかんそうをもったかをはつきりさせる。

- 友だちのかんそうを聞いて、いろいろなかんじ方や考え方があつたことを知る。

15

10

5

🌸 学んだことをいかそう

- 音読したり、体のうごきであらわしたりして、お話を楽しむとき。

- お話を読んで、思ったことをつたえ合うとき。

5

できるようになったこと
〈お話を読む〉



げんこう用紙ようしのつかい方

げんこう用紙に書くときには、書き方に気をつけましょう。
文しようを書きおわったら読みかえして、まちがっている
ところや分かりにくいところがあれば、直なおしましょう。



書きはじめは、一ます空ける。

大ぎよすきな金魚
わたしは、金魚を二ひきかって
います。ことしのなつ夏まつりのと
きにすくつた金魚です。

だいいいは、はじめの行に、上
から二、三ます空あけて書く。

丸(○)や点(・)は、一ますに
書く。

小さく書く文字は、ますの右上
の方に書く。

ならったかん字をつかったり、
文字のまちがいを直したりする。

わたしのごとは、朝、学校に
行く前に、えさをやることです。
わたしが水そうに近ずくと、金魚
はわたしの方におよいできます。
えさをまっつているんだと思います。
わたしはいつも、金魚に、
「おはよう」
とあいさつしてから、えさをやり
ます。

行をかえたら、一ます空ける。

丸や点が行のはじめに来ないよ
うに、前の行のいちばん下のま
すに、文字と一しよに書く。(ま
すの下に書くこともある。)

話したことは、かぎ「」
をつけて書く。
ことばのおわりの丸とかぎ「」
は、一ますに一しよに書く。

本のせかいを 広げよう



本のせかいを
広げよう

📖 **ばん 番ねずみの
ヤカちゃん**
リチャード・ウィルバー 作
まつおかきょうこ やく
おおこそ れいこ 絵



人間に気づかれぬように
にくらす、ねずみのかぞく
でも、子ねずみのヤカちゃん
は、どうしても大きな声
が出てしまいます。

📖 **森おばけ**

なかがりえこ 作
やまわき ゆりこ 絵



森おばけのひらりさんは、
山王小学校に引っこしてき
ました。みんなは、なかよ
しになれるでしょうか。

📖 **さつちゃんの
まほうのて**

たばた せいいち



さつちゃんの手は、おと
うさんやおかあさんと少し
ちがいます。でも、おとう
さんは、「まほうの手だね」
と言います。

📖 **ばあばは、
だいじょうぶ**

くすのき あきこ 作
いしいつとむ 絵



大すきなばあばが、「わ
すれてしまう」びょうきに
なっていました。つば
さは、どうしたらよいので
しょうか。

📖 **てぶくろが
いっぱい**

フローレンス・スロポドキン 文
ルイス・スロポドキン 絵
みはら いずみ やく



てぶくろをなくしたネッ
ドとドニー。町中の人があし
んばいして、てぶくろをと
どけてくれます。

📖 **なんでも
もってる(?)
男の子**

イアン・ホワイブラウ 作
いしがきのりこ やく
すぎはら ともこ 絵



ナンデモモッテル家のフ
ライは、何でももっている
男の子。でも、ピリーに出
会って、あることに気づい
てしまいました。

📖 **かわいいこねこを
もらってください**

なりゆき わかこ 作
たるいしまこ 絵



「ちい……ちい……」と
鳴いていたこねこをひろっ
たちいちゃん。家ではかえ
ないので、たくさんの人に
声をかけますが――。

📖 **ふゆめ
がっしょうだん**

とみなり ただお・
もぎとおる しゃしん
ちようしんた文



冬の木のめをよく見ると、
どうぶつや人の顔に見えて
きます。何の顔にしている
でしょうか。

しぜん・ちしき



わたしたちのたねまき

キヤスリン〓〓ガルブレイス 作
ウエンデイ〓アンダスン〓ハルパリン 絵
なしき かほやく

たねは、雨や大風、川、
どうぶつたちやたいよう、
そして、人間の力をかりて
遠くへはこばれます。



りんごかも しれない

ヨシタケ シンスケ

テーブルの上りんごが
おいてあった。りんごに見
えるけど、ひよっとしたら
りんごじゃないのかも。



はがぬけたら どうするの？

セルビー〓ビラー 文
ブライアン〓カラス 絵
こだま ともこやく

あなたは、はがぬけたら、
そのはを、どうしています
か。せかいの子どもたち
の、ぬけたはのお話です。

詩・ことば



えほん七十二候

しらい あけひろ 作
くぼ あやこ 絵

春、夏、秋、冬のきせつ
をかんじることばがあふれ
ています。一行ずつ声に出
して読んでみましょう。



もしも宇宙でくらしたら

やまもと しょうぞう

いつか宇宙でくらす日が
来るかもしれません。小学
生のひかるから、宇宙での
くらしについて教わりま
しょう。



名犬チロリ

おおき とおる 作
うるしばら とうじ 絵

五ひきの子犬とおかあざ
ん犬を見つけた、ちかちや
んとゆりちゃん。犬をたす
けるために、何をしたで
しょう。本当にあったお話
です。



森のおしゃべり

たに けいこ 詩・絵

屋久島の森は、草花や虫
などの生きものでいっぱい
です。森の中のおしゃべり
に耳をすませてみましょう。



わたり鳥

すずき まもる 作・絵

ツバメのようなわたり鳥
は、どんなところから来る
のでしょうか。そして、なぜ、
長い長いたびをつづけるの
でしょう。



わるいのは じてんしゃ？

タナカヒロシ 作
なかや やすひこ 絵

じてん車にのっていたら、
小さい子にぶつかってし
まった。どうしよう……。
交通のきまりを学べる本で
す。

読み終わった本には、
□にしるしをつけましょう。



「聞いて楽しもう」(52・53ページ)で読んでも
 良かったお話です。ほかに、どのような楽しみ方が
 あるでしょう。

もういちど、だれかに
 読んでもらいたいな。



自分で読んで
 みようかな。



こんどは、だれかに
 読んであげたいな。



せかい一の話

きたしうすけ文

むかあしむかし、^①津軽の^②国の、
 八甲田山の^③てっぺんに、
 だっかいわしが^(大きい)すんでたと。
 バホラと一ぺんはばたけば、

まるで大風ふいたよう。
 山の^④大木は^⑤根元から、
 ボツキボツキとおれとぶし、
 谷川の^⑥水はさかさまに、

上^{かみ}へながれていくんだと。

「せかいは広いと聞くけれど、

でっかいことなら、おいらが一番^{ばん}。

これからたびに 出かけていって、

みんなにいばってやるべかな。」

でっかいわしは、のび上がり、

ながあい羽をゆさぶって、

バホラバホラ、バホラバホラと、

東^{ひがし}の海へとんでった。

一日とんで 何^{なん}百^{ひゃく}里^り、

赤い夕日のしずむ海。

「さすがに、すこうしくたびれた。

ど^{どこ}つかに止^とまり木、ないものか。」

すると、むこうの雲の上、

によつきりつき出た太いえだ。

「やあやあ、いい木が

見つかったぞ。

せかい一でっかいおれさまは、

止まり木さがすも楽^{らく}でねえ^(ない)。」

わしは、その木にバホラと止まり、

その夜^よはぐっすりねむったと。

やがて明^あけゆく東の空、

朝日をあびた大わしは、

「きょうこそ、でっかいおれさまを、

だれかに見せて、いばってやるべ。」

バハラバハラととび立った。

一日とんで何百里、

きょうもくれゆく雲の上、

によつきりつき出た太いえだ。

「やあやあ、今夜も（こんや）ありがたい。」

どさつとえだにまい下りて、

さて、ねむるべと思つたら、

雲の下から声がした。

「だれじゃい、（ゆうべ）ゆんべは右のひげ、

今夜は左のひげの先、

もそらもそらと（くすぐつたい。）こそばゆい。

いったい、どこの何（なに）やつだ。」

大わし、びっくらど（おどろいて、）つてんして、

よくよく見つめた雲の下。

10

えだだと思つた止まり木は、

でつかいでつかいでかえびの、

太くてながあいひげだった。

大わし、首（くび）をうなだれて、

「今の今まで、このわたし、

せかいでいちばんでつかいと、

いばつとんできましたか、

お前さまにはかないません。

きょうから、あなたがせかい。」

すると、でかえび、うれしがり、

ながあいひげを

びっくびっくさせて、

「そんなにお（おれ）らがでつかいか。

そんなら、きょうから、

10

5

お前にかわり、せかいめぐりに

出かけてみるか。」

でかえび、一かき何百里。

ザブランザブラン しぶきを立てて、

東の海へ およいでいった。

5

さてさて、それから何千里、

赤くそまった 日ぐれの海で、

ザブラン、でかえび、思うには、

「おいらも、すこうしねむたくなつた。

どっかに、ほらあな、ないものか。」

10

はるかむこうの 海の上、

びよっこりつき出た 黒いしま。

しまには、ふかあい ほらのあな。

「やあ、いいあなが見つかった。

今夜はここに とまるべえ。」

つぎの日、またまた何千里、

しぶきを立てて、でかえびが、

ザブランザブラン およいでいくと、

赤い夕やけ、なみの上、

またまた、びよっこり 黒いしま。

しまには、ふかあい ほらのあな。

でかえび、ガサガサもぐっていくと、

あなの外から 声がした。

「ゆんべは右のはなのあな、

今夜は左のはなのあな、

ごちよらごちよらと

10

5

くすぐるやつは、

「いったい、どこのどいつだい。」

びっくりぎょうてん、でかえびが、

外へとび出て、よくよく見ると、

黒くてふかあい ほらあなは、

でっかいでっかい海がめの、

はなのあなで あったとき。

さすがのでかえび、ちぢこまり、

「お見それしました、海がめさま。

八甲田山の 大わしに

かわってたびに 出ましたが、

お前さまには かないません。

きょうから、あなたが せかい一」。

10

5

海がめ、まなこをばちくりさせて、

「とんでもないこと、とんでもない、

おいらがせかいで 一番なんて。

よっく見なされ、足元を。

おいらののってる、このしまを。

これは、くじらの せなかだが、

生まれて間まもない 赤んぼう。

親のくじらは 何十じゅうばい。

その親だつて、しおおふきの、

なかまのうちでは 小さいほう」。

10

5

聞いておどろき、見てあきれ、

でかえび、ひげを 下にたれ、

「せかいってひろうい もんだなあ、

上には上があるもんだ。

今の今まで、おいらほど

でっかいものはいないべと、

思っていたのがはずかしい。

いばっていたのがなさけない。

せかいの広さ、でっかさを、

八甲田山の 大わしにも、

知らせてやらにや なるまいて。」

そして、でかえび、夕日をあびて、

ザブランザブラン もと来た方へ、

ザブランザブラン 小さくなって、

ザブランザブラン 帰っていった。

ザブランザブラン 帰っていった。

10

5

① 津軽

あおもりけん 青森県の西の方のよび名。

② 八甲田山

おやぶ 青森県の中央部にある火山群。ここでは、たか高さ二五八五メートルの大岳のこと。

③ 里

道のりをあらわす、むかしのたんい。一里は、やく四千米ートル。

④ しおふき

くじらのこと。

きたしゅうすけさんは、「なんげえはなしっこしかへがな」「へえ六がんばる」などのお話も書いています。

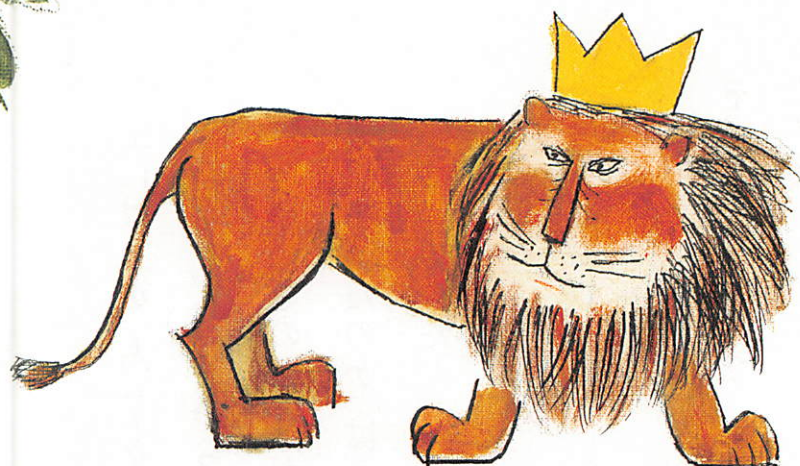
ジオジオのかんむり

きしだ えりこ 作さ

なかたに ちよこ 絵

▼ つぎのかだいにとりくんでみましょう。

- 「ジオジオ」は、どんなことを思いつきましたか。
- お話のはじめとおわりで、「ジオジオ」がかわったなと思うところはありますか。



ジオジオは、ライオンの中でもいちばん強つよかったです。だから、遠とおくの方で、ジオジオのかんむりがちかっと光ると、だれでも、こそこそかくれてしまうのです。





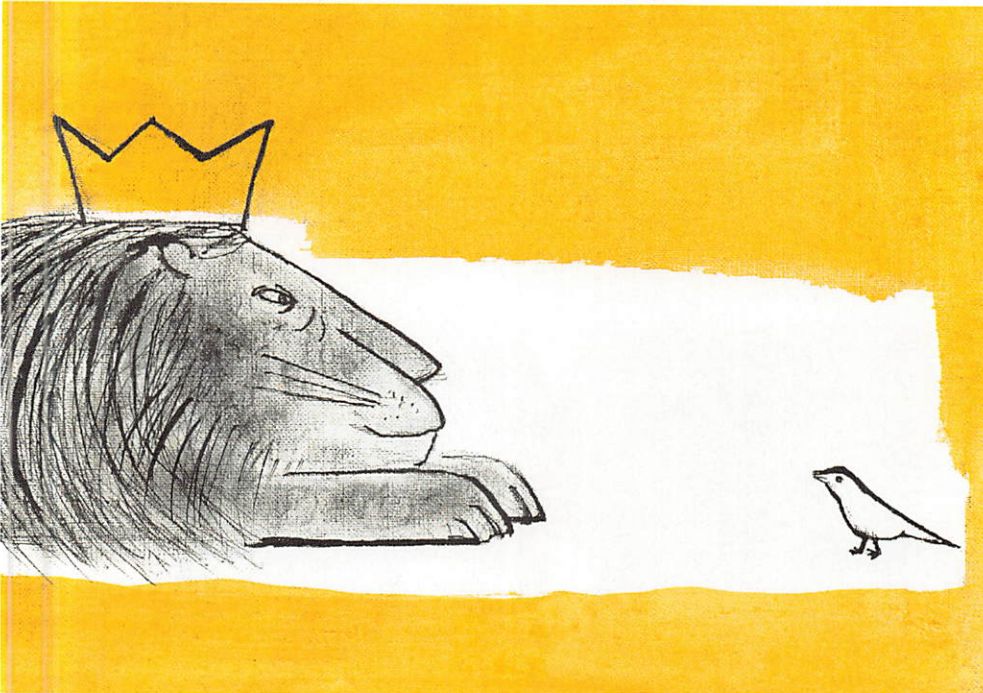
本当^{どう}は、ジオジオはつまらなかつた
のです。きりんをおいかけのるのも、しま
うまをおいかけのるのも、いやになって、
ジオジオは水の中をのぞいてみました。
だれかと、ゆっくり話してみたくなりま
した。

「おや、しらがが生えてきた。おや、目
がよく見えなくなってきた。」

「ジオジオの王さま、つまらなそうです
ね。わたしもつまらないんです。
すぐそばで、はい色の鳥が言いました。」

10

5

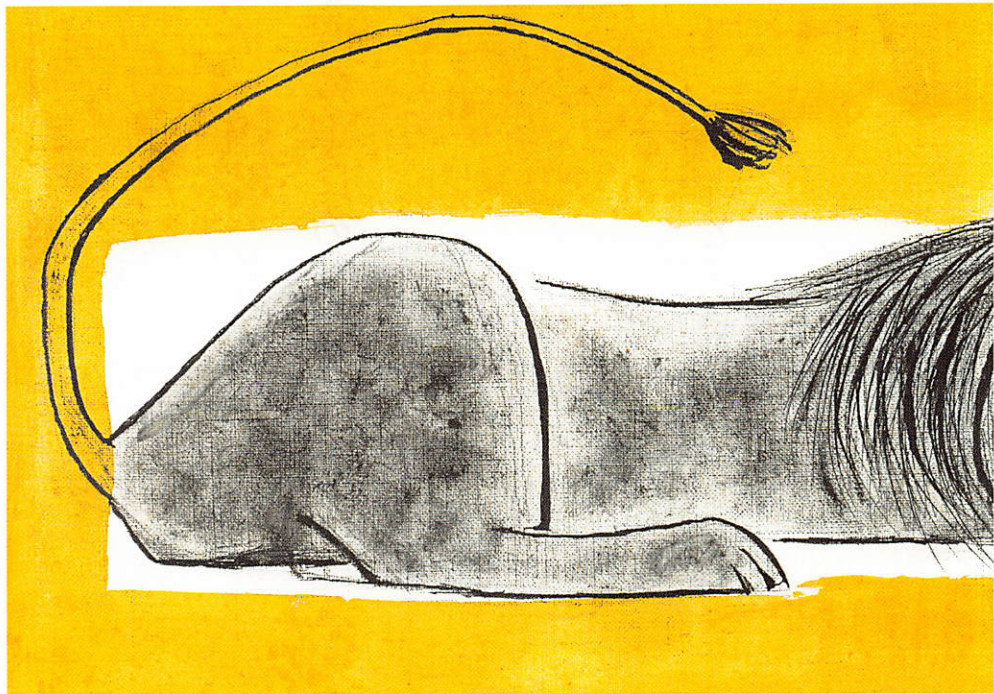


「だって、六つもあったたまごが、みんななくなっちゃったんですよ。三つは、ひょうがぬすんだんです。二つは、へびがのんだんです。あと一つは、川の中におっことしてしまっただんです。」

5

「そうかい、そりゃ、つまらないだろうな。うむ——、ああっと、いいこと考えた。たまごをうみたいなら、いいところがあるぞ。もっと近よりなさい。ないしよで教えるから。ほうら、おれの頭の上のかんむりの中なら、どう

10



思う。」

「なんていい思いつき。本当に王さま、そこにうんでもいいんですか。」

はい色の鳥はうれしくて、ぴよんととび上がりました。

鳥は、ジオジオの頭の上に、すを作りつくました。鳥は、すの中に、たまごをうみました。ジオジオは、鳥を頭の上にのせて歩いたのです。のっそりのっそり、歩いたのです。

「たまごのぐあいはどうかね。」

「ぐあいよさそうですよ、王さま。」

夕立が来ると、ジオジオは、大きな木の下で、じっと雨あまやどりします。



夜になって、ジオジオがねむっても、ひょうはそばに近よ
れませんか。へびも、たまごをぬすめません。たまごはみんな、
ジオジオの頭の上ののっていたのですから。

春が来て、たまごは一つ一つかえりました。小さなひなが、
七つ生まれました。ジオジオの頭の上で、チツチ、チツチと
鳴なきました。はい色の鳥はうれしそうに、いくともえさを
やりました。ひなは七つとも、みんな元気にそだったのです。

七つの小鳥は、ジオジオのたてがみやしっぽに止とまって
鳴きました。ジオジオは、よく目が見えません。でも、ジオ
ジオは 聞いていたのです。小鳥の声を、うれしそうに
じっと聞いていたのです。



きしだえりこさん
は、「かばくん」「か
えってきたきつね」
なども書いています。

これまでにならったたかん字

ならった読み方で、あいうえおじゅんにならべてあります。
 △は、これからならう読み方。()は、小学校ではならわぬ読み方。

□1 花 (7) — たしかめ 学年
 — かん字 字数
 — 画数 画数
 はか — 読み方
 な

□2 当 (6) △あたる (あてる) △あたる (あてる) △あたる (あてる)
 □2 頭 (16) △あたま (あたま) △あたま (あたま) △あたま (あたま)
 □1 足 (7) △あし (あし) △あし (あし) △あし (あし)
 □2 朝 (12) △あさ (あさ) △あさ (あさ) △あさ (あさ)
 □1 赤 (7) △あか (あか) △あか (あか) △あか (あか)
 □1 青 (8) △あお (あお) △あお (あお) △あお (あお)

□1 犬 (4) △いぬ (いぬ) △いぬ (いぬ) △いぬ (いぬ)
 □1 糸 (6) △いと (いと) △いと (いと) △いと (いと)
 □1 一 (1) △いち (いち) △いち (いち) △いち (いち)
 □1 石 (5) △いし (いし) △いし (いし) △いし (いし)
 □2 家 (10) △いえ (いえ) △いえ (いえ) △いえ (いえ)
 □2 言 (7) △いふ (いふ) △いふ (いふ) △いふ (いふ)
 □2 歩 (8) △あゆ (あゆ) △あゆ (あゆ) △あゆ (あゆ)
 □1 雨 (8) △あめ (あめ) △あめ (あめ) △あめ (あめ)
 □2 姉 (8) △あね (あね) △あね (あね) △あね (あね)
 □2 兄 (5) △あに (あに) △あに (あに) △あに (あに)

□2 園 (13) △えん (えん) △えん (えん) △えん (えん)
 □1 円 (4) △えん (えん) △えん (えん) △えん (えん)
 □2 絵 (12) △え (え) △え (え) △え (え)
 □2 海 (9) △うみ (うみ) △うみ (うみ) △うみ (うみ)
 □1 上 (3) △あが (あが) △あが (あが) △あが (あが)
 □2 岩 (8) △いわ (いわ) △いわ (いわ) △いわ (いわ)
 □2 色 (6) △いろ (いろ) △いろ (いろ) △いろ (いろ)
 □1 入 (2) △い (い) △い (い) △い (い)
 □2 妹 (8) △いもうと (いもうと) △いもうと (いもうと) △いもうと (いもうと)
 □2 今 (4) △いま (いま) △いま (いま) △いま (いま)

□1 火 (4) △ひ (ひ) △ひ (ひ) △ひ (ひ)
 □1 女 (3) △おんな (おんな) △おんな (おんな) △おんな (おんな)
 □1 音 (9) △おん (おん) △おん (おん) △おん (おん)
 □2 親 (16) △おや (おや) △おや (おや) △おや (おや)
 □2 思 (9) △おも (おも) △おも (おも) △おも (おも)
 □2 同 (6) △おな (おな) △おな (おな) △おな (おな)
 □1 男 (7) △おとこ (おとこ) △おとこ (おとこ) △おとこ (おとこ)
 □2 弟 (7) △おとうと (おとうと) △おとうと (おとうと) △おとうと (おとうと)
 □2 多 (6) △おほい (おほい) △おほい (おほい) △おほい (おほい)
 □1 王 (4) △おう (おう) △おう (おう) △おう (おう)

□2 刀 (2) △かた (かた) △かた (かた) △かた (かた)
 □2 形 (7) △かたち (かたち) △かたち (かたち) △かたち (かたち)
 □2 風 (9) △かぜ (かぜ) △かぜ (かぜ) △かぜ (かぜ)
 □2 楽 (13) △がく (がく) △がく (がく) △がく (がく)
 □1 学 (8) △がく (がく) △がく (がく) △がく (がく)
 □2 顔 (18) △かお (かお) △かお (かお) △かお (かお)
 □2 買 (12) △かう (かう) △かう (かう) △かう (かう)
 □1 貝 (7) △かい (かい) △かい (かい) △かい (かい)
 □2 会 (6) △かい (かい) △かい (かい) △かい (かい)
 □2 回 (6) △かい (かい) △かい (かい) △かい (かい)
 □1 花 (7) △はな (はな) △はな (はな) △はな (はな)

□2 行 (6) △ぎょう (ぎょう) △ぎょう (ぎょう) △ぎょう (ぎょう)
 □2 教 (11) △おしえる (おしえる) △おしえる (おしえる) △おしえる (おしえる)
 □1 九 (2) △きゅう (きゅう) △きゅう (きゅう) △きゅう (きゅう)
 □2 聞 (14) △きこ (きこ) △きこ (きこ) △きこ (きこ)
 □2 記 (10) △き (き) △き (き) △き (き)
 □2 黄 (11) △おう (おう) △おう (おう) △おう (おう)
 □2 汽 (7) △き (き) △き (き) △き (き)
 □1 気 (6) △けき (けき) △けき (けき) △けき (けき)
 □2 考 (6) △かんがえる (かんがえる) △かんがえる (かんがえる) △かんがえる (かんがえる)
 □1 川 (3) △かわ (かわ) △かわ (かわ) △かわ (かわ)

□1 子 (3) △こ (こ) △こ (こ) △こ (こ)
 □2 元 (4) △げん (げん) △げん (げん) △げん (げん)
 □2 間 (12) △あいだ (あいだ) △あいだ (あいだ) △あいだ (あいだ)
 □1 月 (4) △がつ (がつ) △がつ (がつ) △がつ (がつ)
 □2 毛 (4) △け (け) △け (け) △け (け)
 □2 黒 (11) △くろ (くろ) △くろ (くろ) △くろ (くろ)
 □2 雲 (12) △くも (くも) △くも (くも) △くも (くも)
 □2 組 (11) △ぐみ (ぐみ) △ぐみ (ぐみ) △ぐみ (ぐみ)
 □1 口 (3) △くち (くち) △くち (くち) △くち (くち)
 □1 草 (9) △くさ (くさ) △くさ (くさ) △くさ (くさ)
 □1 金 (8) △かね (かね) △かね (かね) △かね (かね)

2 算 (14) さん
1 三 (3) みみつ
2 魚 (11) さかな
2 国 (8) こくに
2 声 (7) こえ
1 校 (10) こう
2 公 (4) こう
2 語 (14) こと
2 後 (9) あと
2 午 (4) ご
1 五 (4) ご

2 書 (10) かく
1 十 (2) じゅう
1 車 (7) くるま
2 社 (7) しゃ
2 室 (9) むろ
1 七 (2) しち
1 下 (3) した
1 字 (6) じ
1 四 (5) よし

2 切 (4) きる
1 生 (5) せい
2 数 (13) かず
1 水 (4) みず
1 人 (2) ひと
1 白 (5) しろ
2 知 (8) ち
1 正 (5) せい

1 竹 (6) たけ
2 高 (10) たかい
1 大 (3) だい
2 体 (7) たい
1 田 (5) たん
1 空 (8) そら
2 外 (5) がい
2 前 (9) まえ
2 線 (15) せん
1 先 (6) さき
1 千 (3) せん

1 出 (5) だす
1 手 (4) て
2 長 (8) ながい
1 町 (7) ちょう
1 虫 (6) ちゅう
1 中 (4) ちゅう
2 父 (4) ちち
1 力 (2) ちから
2 近 (7) ちか
1 小 (3) ちひ
1 玉 (5) たま
1 立 (5) たつ

2 夏 (10) なつ
2 内 (4) うち
2 鳥 (11) とり
2 友 (4) とも
2 読 (14) よく
2 通 (10) とおす
1 土 (3) つち
2 凶 (7) と
2 電 (13) でん
2 点 (9) てん
2 店 (8) みせ
1 天 (4) てん

2 半 (5) はん
2 晴 (12) はれる
2 春 (9) はる
1 林 (8) はやし
1 早 (6) はやい
2 母 (5) はは
2 羽 (6) はね
1 八 (2) はち
1 年 (6) ねん
1 日 (4) ひ
2 肉 (6) にく
1 二 (2) ふた

この本で ならうかん字

読み方は、この本でならうもの。

27	36 15	15	13	116 12	41 11	41 11
里	何	帰	時	来	紙	紙
7画	7画	10画	10画	7画	10画	10画
さと	なん	かえる かえす	じ とき	らい くる	し かみ(がみ)	し
里いも	なに なん	家へ帰る 妹を帰す	時間がたつ 時間	やって来る 家来	手紙 画用紙	読み方 つかい方
	主語と述語に気をつけよう					

30	30	30	27	27	27	30	27	112 27
古	京	東	かん字の読み方	番	週	池	明	食
5画	8画	8画		12画	11画	6画	8画	9画
ふるす ふるい	きよう	とう		ばん	しゅう	いけ	あかす あくる あく	あかるい あかるむ あからむ あける あける
古い本 つかい古す	東京	東京		当番	今週	池	明くる日 正体を明かす	空が明るい 空が明るむ 空が明らむ 夜が明ける
								ごはんを食べる めしを食う

32	31	31	80 31	30	30	30	30	30	30
秋	米	船	新	台	場	道	止	西	寺
9画	6画	11画	13画	5画	12画	12画	4画	6画	6画
あき	こめ	ふね	あたらしい しん	だい	ば	みち	とまる とめる	にし	てら
秋まつり	お米	船	新しい 新聞紙	ふみ台	広場	さか道	車が止まる 足を止める	西日	お寺

42	41	41	114 39	46 36	36	35	104	34
首	用	画	馬	作	理	活	合	そうだんにのってください
9画	5画	8画	10画	7画	11画	9画	6画	
くび	よう	が	うま	さく	つくる	り	あう あわす あわせる	
馬の首	画用紙	画用紙	白い馬 けい馬	図画工作	パンを作る	理由	声を合わせる 合休	

50	50	50	50	50	50	46	46	42	42
市	地	茶	麦	戸	鳴	科	工	角	細
5画	6画	9画	7画	4画	14画	9画	3画	7画	11画
いち	ち	ちゃ	むぎ	と(と)	なく なる ならず	か	こう	かく	ほそい ほそる
市場	土地	麦茶	麦茶	雨戸	鳴き声 かねが鳴る 音を鳴らす	生活科	図画工作	四角形	細い糸 やせ細る

かたかなで書くことは

80	76	107 73	73	64	58	56	55	
星	冬	原	野	答	心	歌	自	わたしはおねえさん
9画	5画	10画	11画	12画	4画	14画	6画	
ほし	ふゆ	げん	の	こたえ	こころ	うた	じ	
星が光る	冬休み	草原	野原	こたえる こたえ	心の中	うた うたう	自分	
				とくに答える 答えを書く		歌を作る みんなて歌う		

にたいみのことは、
はんたいのいみのことは

冬がいつぱい

お話のさくしゃになろう

わたしはおねえさん

104	104	101	110 99	86	86	107 102 81
門	才	強	遠	交	走	少
8画	3画	11画	13画	6画	7画	4画
もん	さい	つよい	えん	こう	はしる	すくない
門	天才	つよまる	とおい	交代	走りだす	すこし
		力強い 風が強まる 力を強める	遠足 遠くまでひびく			もう少し 少年

カンジーはかせの
大はつめい

楽しかったよ、二年生

見たこと、かんじたこと

おにごっこ

すくない
数が少ない
すこし
もう少し
少年

131	129	121	116	112	108	108	105	105	105
直	計	弱	売	引	牛	北	谷	矢	弓
8画	9画	10画	7画	4画	4画	5画	7画	5画	3画
なおす	けい	よわる	うる	ひく	うし	きた	たに	や	ゆみ
書き直す きげんが直る	計算	よわまる	うれる	ひける	牛や馬	北の方	谷川	弓矢	弓矢
		体が弱る 気が弱い 風が弱まる 力を弱める	売りに来る 本が売れる	引きしまる 気が引ける					

すてきなどころを
つたえよう

スーホの白い馬



ことばのたからばい

考えや気もちを つたえることば

お話に出てくるじんぶつについてせつめいするときや、思ったことをつたえるときに、つかいましょう。

じんぶつを
あらわすことば

ものようすを
あらわすことば

考え方を
あらわすことば

親切 しんせつ

やさしい

思いやりのある

しっかりもの

しょうじき

がまん強い づよ

こわがり

いじっぱり

おだやか

ひょうきん

りっぱ

べんり

かんたん

むずかしい

新しい あたら

古い ふる

あぶない

ふさわしい

みごと

よく分かる

——にそっくり

——とちがう

——くらいの

同じところは——

ちがうところは——

わたしだったら——

ぼくだったら——

気もちをあらわすことば

あんしん

すき

かんしんする

しあわせ

うきうきする

わすれられない

気になる

うらやましい

こまる

くやしい

目を丸くする

おそろしい

ぞっとする

あきる

おちこむ

なげやり

きらい

すねる

あわてる

はらはらする

ひやひやする

にたいみのことば、はんたいの
いみのことばを見つけよう

このページにあることばで、組を
作ってみましょう。

〈れい〉

- にたいみ
- はんたいのいみ

やさしい ← 古い ふる

← 思いやりのある → 新しい あたら

組にできることばがほかにないか、
さがしてみましよう。



ここに
あることばを
きっかけにして、
ことばをふやそう。

がくしゅうに用いるじゆば

とうじょうじんぶつ (じんぶつ)

お話の中に出てくる人のことです。お話の中で、人のよう
うごいたり、考えたりする生きものやものも、とうじょうじん
ぶつ (じんぶつ) といいます。

とうじょうじんぶつが言ったことや、したことを思いうか
べながら読むと、お話のないようがよく分かります。

上24ページ

メモ

聞いたことや考えたことなどを、書きとめることです。また、
書きとめたものも、メモといいます。

だいたいなことをみじかいことばでメモしておく、後でつ
たえたいことを正しくつたえることができます。

上36ページ

あらすじ

とうじょうじんぶつがしたことや、できごとを中心もとに、お話
をみじかくまとめたものです。じんぶつがしたことを、お話の
じゆんにみじかくまとめてつなげると、あらすじになります。

お話を人にかいするときには、あらすじをつたえる
と、そのお話をぜんぶ読まなくても、だいたいどのような
ないようかが分かります。

上74ページ

組み立て

文しうや話が、どのようなまとまりとじゆんじよででき
ているかということです。組み立ては、「はじめ」「中」「おわり」
のまとまりで考えると、分かりやすくなる人が多いです。

読むときは、それぞれのまとまりが何なにについて書かれてい
るかを考えながら読むと、文しうぜんたいのないようが
よく分かります。

話したり書いたりするときは、つたえたいことをまとまり
ごとにせいりして、組み立てを考えると、聞く人や読む人
につたわりやすくなります。

上82ページ

しつもん

分からないことや知りたいこと、たしかめたいことなどを、
人にきくことです。しつもんをするときは、あいての話をよく

20

国語のがくしゅうで、よくつかわれることばです。いみ
やつかい方をたしかめて、がくしゅうにいかしましょう。

聞いて、かんけいのあることをたずねるようにします。

話し合あうときには、おたがいにしつもんをし合うことで、
ほかの人の考えがよく分かるようになったり、みんなの考
えがせいりされたりします。

上87ページ

ひつしゃ

文しうを書いた人のことです。お話や詩しなどを書いた人で
ある「さくしや」とくべつして、せつめいする文しうを書い
た人をひつしゃといふことがあります。

ひつしゃがどんな人かをたしかめたり、ひつしゃが考えた
ことに気をつけて読んだりすると、その文しうが何なににつ
いてせつめいしているのかがよく分かります。

上124ページ

わだい

話したり話し合あったりするときの、中心もととなることからやざ
いりようのことです。

わだいから外はずれないように話すと、聞く人も何なにをつたえた
いかがよく分かります。

上35ページ

できごと

お話の中でおきたことです。とくに大きなできごとを「じけ
ん」といふことがあります。

お話を作つくるときには、「いつ」「どこで」「だれが」「何なにをし
たか」など、できごとをくわしく書くと、読む人がないよ
うを思いうかべやすくなります。

上72ページ

これまでに学んだことば

さくしや

お話や詩しなどを作つくった人を、「さくしや」といいます。

だいいめい

本や文しうにつけられた名前を、「だいいめい」とい
います。本のだいいめいは、ひょうしに書いてあります。

やくしや

外国語がいこの文しうを、日本語の文しうに直なおすことを、
「やくす」といいます。やくした人は、「やくしや」とい
います。

20

15

編集委員

甲斐陸朗

元国立国語研究所長

高木まさき

横浜国立大学大学院教授

青山由紀

筑波大学附属小学校教諭

赤木雅宣

ノートルダム清心女子大学教諭

阿辻哲次

京都大学名誉教授

阿部昇

秋田大学特別教授

池上彰

ジャーナリスト

石井陸美

作家

石黒圭

国立国語研究所教授

稲田八穂

筑紫女学園大学教授

井上一郎

前京都女子大学教授

浮田真弓

岡山大学教授

内田伸子

お茶の水女子大学名誉教授

岡田博元

お茶の水女子大学附属小学校教諭

甲斐雄一郎

筑波大学教授

鹿毛雅治

慶應義塾大学教授

桂聖

筑波大学附属小学校教諭

茅野政徳

山梨大学教職大学院准教授

工藤直子

作家

鴻上尚史

作家・演出家

興水かわり

前玉川大学客員教授

佐渡島紗織

早稲田大学教授

達富洋二

佐賀大学教授

田中洋一

東京女子体育大学教授

棚橋尚子

奈良教育大学教授

土山和久

大阪教育大学教授

永池啓子

横浜国立大学講師

中川一史

放送大学教授

中村桂子

作家

長谷浩也

生命誌研究館館長

蜂飼耳

環太平洋大学教授

原田義則

詩人・作家

藤森裕治

信州大学術研究院教授

細川太輔

東京学芸大学教職大学院准教授

三浦登志一

山形大学術研究院教授

邑上裕子

明星大学客員教授

森篤嗣

京都外国語大学教授

森山卓郎

早稲田大学教授

吉永幸司

前京都女子大学教授

市原恭代

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
工学院大学准教授
NPO法人カラーユニバーサル
デザイン機構(CUDO)理事

特別支援教育に関する校閲

佐島毅

筑波大学准教授

学習のユニバーサルデザインに関する校閲

小貫悟

明星大学教授

光村図書出版株式会社編集部

アート・ディレクション／デザイン 図工室(坂 啓典／近田宏生／堀ノ内達也)

表紙絵 大野八生 とびら詩 まど・みちお とびら絵 SECRET

さし絵 浅倉田美子／神山博光／川口澄子／カワチ・レン／河原崎秀之／SECRET／ニシハマカオリ／パンチハル／ひらぎみつえ／

山田タクヒロ 書き文字 樋口咲子

写真 岩崎書店／長岡博史

【40手紙】

COPYRIGHT ©1970 ARNOLD LOBEL.

Used by permission of HarperCollins Publishers through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

こくご 二 下赤とんぼ

38 光村 国語208 小学校国語科用

年月 日印刷
年月 日発行

(平成三十一年二月二十五日検定済)

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
(右記の定価は、各教科書取次供給所に表示
します。)

この教科書にもとづくワークブック・解説書、
ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-8138-0067-5

著作者

甲斐陸朗 ほか四十三名別記

発行者

光村図書出版株式会社

代表者 小泉 茂

東京都品川区上大崎二十九

印刷者

協和オフセット印刷株式会社

代表者 嶋 三津夫

東京都港区浜松町一三二一

発行者

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九

電話 (〇三) 三四九三二二二一 (代表)

ISBN978-4-8138-0067-5

C4381 ¥00000E



9784813800675



192438100000

保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD
FONT



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k2g/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

二
年

組

